

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-339637

(43) 公開日 平成8年(1996)12月24日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 1 1 B 20/12	1 0 2	9295-5D 9295-5D	G 1 1 B 20/12	1 0 2
H 0 4 N 5/92 7/24			H 0 4 N 5/92 7/13	H Z

審査請求 有 請求項の数28 O L (全 42 頁)

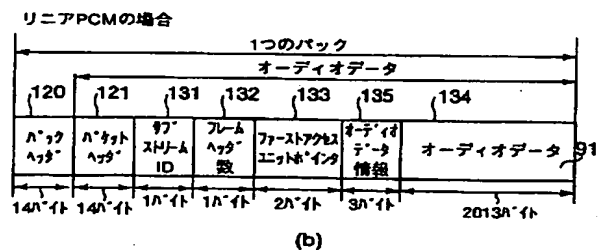
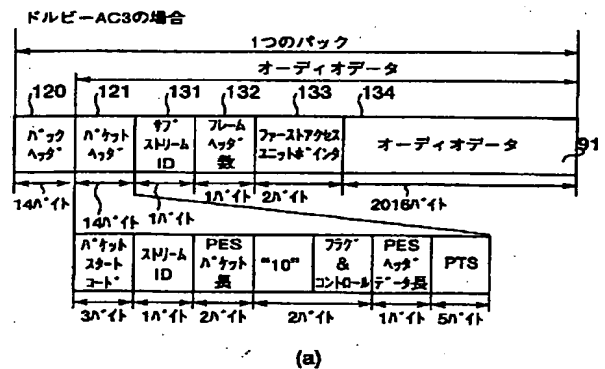
(21) 出願番号	特願平8-78716	(71) 出願人	000003078 株式会社東芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地
(22) 出願日	平成8年(1996)4月1日	(71) 出願人	000221029 東芝エー・ブイ・イー株式会社 東京都港区新橋3丁目3番9号
(31) 優先権主張番号	特願平7-85693	(72) 発明者	菊地 伸一 東京都港区新橋3丁目3番9号 東芝エー・ブイ・イー株式会社内
(32) 優先日	平7(1995)4月11日	(72) 発明者	三村 英紀 神奈川県川崎市幸区柳町70番地 株式会社 東芝柳町工場内
(33) 優先権主張国	日本 (J P)	(74) 代理人	弁理士 鈴江 武彦
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 記録媒体とこの記録媒体へのデータの記録装置とその記録方法、その記録媒体からのデータの再生装置とその再生方法

(57) 【要約】

【課題】 この発明は、さまざまな種別データを複数種類取り扱うことができる。

【解決手段】 この発明は、光ディスクのデータ領域に、プログラムチェーン、プログラム、セル、パックの階層構造でデータが記録され、上記各パックが、各パックを識別するためのパックヘッダとデータストリームが記録されるバケットよりなり、上記バケットが少なくともプライベートストリームを示すストリームIDを有するバケットヘッダとそのプライベートストリームの種別を示すサブストリームIDとが記述され、この種別としては、ドルビーAC3のオーディオデータのバケットデータ、リニアPCMのオーディオデータのバケットデータ、副映像データのバケットデータ、あるいはコンピュータデータのバケットデータであることを示すものである。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、

上記データ領域には、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録されており、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが、各バックを識別するためのバックヘッダとデータストリームが記録されるバケットよりなり、上記バケットが少なくともプライベートストリームを示すデータを有するバケットヘッダとプライベートストリームの種別を示すデータとこの種別に対応するバケットデータよりなり、

上記管理領域には、上記データ領域のプログラムチェーン、プログラム、セル、バックに対する繋がりを管理する管理データが記録されている、

ことを特徴とする記録媒体。

【請求項2】 上記プライベートストリームの種別を示すデータが、特殊再生用のデータ、ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、副映像データ、コンピュータデータ、JPEGデータ、TIFFデータ、PICTデータ、フォトCDデータ、ビットマップデータ、XAオーディオデータ等の種別を示すものであることを特徴とする請求項1に記載の記録媒体。

【請求項3】 上記プライベートストリームの種別を示すデータが、フレーム単位のデータが記録されるリニアオーディオデータまたはドルビーAC3オーディオデータを示す場合に、上記バケットにバック内における先頭フレームのアクセス位置を示すデータが記録されていることを特徴とする請求項2に記載の記録媒体。

【請求項4】 上記プライベートストリームの種別を示すデータが、フレーム単位のデータが記録されるリニアオーディオデータまたはドルビーAC3オーディオデータを示す場合に、上記バケット内のプライベートストリームの種別を示すデータの後にバック内における先頭フレームのアクセス位置を示すデータが記録されていることを特徴とする請求項2に記載の記録媒体。

【請求項5】 上記プライベートストリームの種別を示すデータが、コンピュータデータを示す場合に、プライベートストリームの種別を示すデータの後にバックデータが使用可能なコンピュータの種別と使用オペレーションシステムを示すデータが記録されていることを特徴とする請求項2に記載の記録媒体。

【請求項6】 一部の領域に管理領域と、他の領域にデータ領域が形成され、

上記データ領域には、複数のプログラムが記録されており、1つのプログラムが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが、各バックを識別するためのバックヘッダとデータストリームが記録されるバケットよりなり、上記バケットが少なくともプライベートス

2

トリームを示すデータを有するバケットヘッダとプライベートストリームの種別を示すデータとこの種別に対応するバケットデータよりなり、

上記管理領域には、上記データ領域の各プログラムとバックに対する繋がりを管理する管理データが記録されている、

ことを特徴とする記録媒体。

【請求項7】 上記プライベートストリームの種別を示すデータが、特殊再生用のデータ、ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、副映像データ、コンピュータデータ、JPEGデータ、TIFFデータ、PICTデータ、フォトCDデータ、ビットマップデータ、XAオーディオデータ等の種別を示すものであることを特徴とする請求項6に記載の記録媒体。

【請求項8】 上記プライベートストリームの種別を示すデータが、フレーム単位のデータが記録されるリニアオーディオデータまたはドルビーAC3オーディオデータを示す場合に、上記バケットに先頭フレームのアクセス位置を示すデータが記録されていることを特徴とする請求項7に記載の記録媒体。

【請求項9】 上記プライベートストリームの種別を示すデータが、フレーム単位のデータが記録されるリニアオーディオデータまたはドルビーAC3オーディオデータを示す場合に、上記バケット内のプライベートストリームの種別を示すデータの後に先頭フレームのアクセス位置を示すデータが記録されていることを特徴とする請求項7に記載の記録媒体。

【請求項10】 上記プライベートストリームの種別を示すデータが、コンピュータデータを示す場合に、プライベートストリームの種別を示すデータの後にバックデータが使用可能なコンピュータの種別と使用オペレーションシステムを示すデータが記録されていることを特徴とする請求項7に記載の記録媒体。

【請求項11】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域には、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるバケットを有する記録媒体において、

オーディオデータ、あるいは副映像データを受入れ、この受入れたオーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとオーディオデータのストリーム番号とオーディオデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、上記受入れた副映像データの一部とこの副映像データの

3

ストリーム番号と副映像データを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、上記形成したバックを上記記録媒体に記録することを特徴とする記録方法。

【請求項12】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域には、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるパケットを有する記録媒体において、

ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データを受入れ、

この受入れたドルビーAC3オーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとドルビーAC3オーディオデータのドルビーAC3ストリーム番号とオーディオデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記受入れたリニアオーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとリニアオーディオデータのストリーム番号とリニアオーディオデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記受入れたコンピュータデータの一部とこのコンピュータデータの使用CPUや使用OSの環境情報とコンピュータデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記受入れた副映像データの一部とこの副映像データのストリーム番号と副映像データを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記形成したバックを上記記録媒体に記録することを特徴とする記録方法。

【請求項13】 一部の領域に管理領域、他の領域にデ

4

ータ領域が形成され、上記データ領域には、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるパケットを有する記録媒体において、

特殊再生用のデータ、ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データを受入れ、

この受入れた特殊再生用のデータと特殊再生用のデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記受入れたドルビーAC3オーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとドルビーAC3オーディオデータのドルビーAC3ストリーム番号とオーディオデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記受入れたリニアオーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとリニアオーディオデータのストリーム番号とリニアオーディオデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記受入れたコンピュータデータの一部とこのコンピュータデータの使用CPUや使用OSの環境情報とコンピュータデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記受入れた副映像データの一部とこの副映像データのストリーム番号と副映像データを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成し、

上記形成したバックを上記記録媒体に記録することを特徴とする記録方法。

【請求項14】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれの

10

20

30

40

50

5

プログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるバケットを有する記録媒体にデータが記録される記録装置において、

オーディオデータ、あるいは副映像データを受入れる受入手段と、

この受入手段により受入れたオーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとオーディオデータのストリーム番号とオーディオデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第1の形成手段と、

上記受入手段により受入れた副映像データの一部とこの副映像データのストリーム番号と副映像データを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第2の形成手段と、

これらの第1乃至第2の形成手段により形成したバックを上記記録媒体に記録する記録手段と、を具備したことを特徴とする記録装置。

【請求項15】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるバケットを有する記録媒体にデータが記録される記録装置において、

ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データを受入れる受入手段と、

この受入手段により受入れたドルビーAC3オーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとドルビーAC3オーディオデータのストリーム番号とドルビーAC3オーディオデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第1の形成手段と、

上記受入手段により受入れたリニアオーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとリニアオーディオデータのストリーム番号とリニ

6

アオーディオデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第2の形成手段と、上記受入手段により受入れたコンピュータデータの一部とこのコンピュータデータの使用CPUや使用OSの環境情報とコンピュータデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第3の形成手段と、

上記受入手段により受入れた副映像データの一部とこの副映像データのストリーム番号と副映像データを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第4の形成手段と、

これらの第1乃至第4の形成手段により形成したバックを上記記録媒体に記録する記録手段と、を具備したことを特徴とする記録装置。

【請求項16】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるバケットを有する記録媒体にデータが記録される記録装置において、

特殊再生用のデータ、ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データを受入れる受入手段と、

この受入れた特殊再生用のデータと特殊再生用のデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第1の形成手段と、

上記受入手段により受入れたドルビーAC3オーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとドルビーAC3オーディオデータのストリーム番号とドルビーAC3オーディオデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第2の形成手段と、

7

上記受入手段により受入れたリニアオーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとリニアオーディオデータのストリーム番号とリニアオーディオデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第3の形成手段と、上記受入手段により受入れたコンピュータデータの一部とこのコンピュータデータの使用CPUや使用OSの環境情報とコンピュータデータを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダとによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第4の形成手段と、

上記受入手段により受入れた副映像データの一部とこの副映像データのストリーム番号と副映像データを示すデータとからなるバケットデータとこのバケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやバケット長を有するバケットヘッダによるバケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第5の形成手段と、

これらの第1～第5の形成手段により形成したバックを上記記録媒体に記録する記録手段と、を具備したことを特徴とする記録装置。

【請求項17】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるバケットを有する記録媒体から記録されているバックごとのデータを再生するものにおいて、

上記記録媒体のバックごとのデータを読み取り、この読み取られたバックのバケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断し、

このプライベートストリームを判断した際に、続けて読出されるストリームの種別データによりデータがオーディオデータ、あるいは副映像データかを判断し、オーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて読出されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記読み取られたバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記読み取られるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

上記抽出されたオーディオデータあるいは副映像データ

8

に対して、上記判断したデータの種別に対応した復調を行い、

この復調されたデータを再生出力し、

ことを特徴とする再生方法。

【請求項18】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるバケットを有する記録媒体から記録されているバックごとのデータを再生するものにおいて、

上記記録媒体のバックごとのデータを読み取り、

この読み取られたバックのバケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断し、

このプライベートストリームを判断した際に、続けて読出されるストリームの種別データによりデータがドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データかを判断し、

ドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて読出されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記読み取られたバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

コンピュータデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて読出される使用CPUや使用OSの環境情報を抽出するとともに、この環境情報に続けて上記読み取られるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記読み取られるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

上記抽出されたドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータあるいは副映像データに対して、上記判断したデータの種別に対応した復調を行い、

この復調されたデータを再生出力し、

上記抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出力することを特徴とする再生方法。

【請求項19】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるバケットを有する記録媒体から記録されているバックごとのデータを再生するものにおいて、

9

上記記録媒体のバックごとのデータを読み取り、
この読み取られたバックのポケットヘッダにプライベート
ストリームであることを示すデータの有無を判断すると
ともにデータ長を判断し、
このプライベートストリームを判断した際に、続けて読
出されるストリームの種別データによりデータが特殊再
生用のデータ、ドルビーAC3オーディオデータ、リニ
アオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副
映像データかを判断し、
特殊再生用のデータを判断した際、ストリームの種別デ
ータに続けて読出されるバックデータ内の特殊再生用の
データを上記判断したデータ長分抽出し、
ドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーデ
ィオデータを判断した際、ストリームの種別データに続
けて読出されるフレームデータの開始アドレスに応じ
て、上記読み取られたバックデータ内のデータを上記判断
したデータ長分抽出し、
コンピュータデータを判断した際、ストリームの種別デ
ータに続けて読出される使用CPUや使用OSの環境情
報を抽出するとともに、この環境情報に続けて上記読み
取られるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長
分抽出し、
副映像データを判断した際、ストリームの種別データに
続けて上記読み取られるバックデータ内のデータを上記判
断したデータ長分抽出し、
上記抽出されたドルビーAC3オーディオデータ、リニ
アオーディオデータあるいは副映像データに対して、上
記判断したデータの種別に対応した復調を上記特殊再生
用のデータに基づいて行い、
この復調されたデータを再生出力し、
上記抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出
力することを特徴とする再生方法。

【請求項20】 一部の領域に管理領域、他の領域にデ
ータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数の
プログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれの
プログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つ
のプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数
のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが
各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録
されるポケットを有する記録媒体から記録されているバ
ックごとのデータを再生する再生装置において、
上記記録媒体のバックごとのデータを読み取る読み取
り手段と、
この読み取り手段により読み取られたバックのポケットヘッ
ダにプライベートストリームであることを示すデータの有
無を判断するとともにデータ長を判断する第1の判断手
段と、
この第1の判断手段によりプライベートストリームを判
断した際に、続けて読出されるストリームの種別データ
によりデータがオーディオデータ、あるいは副映像デー
タかを判断する第2の判断手段と、
この第2の判断手段によりオーディオデータを判断した
際、ストリームの種別データに続けて読出されるフレー
ムデータの開始アドレスに応じて、上記読み取り手段に
より読み取られたバックデータ内のオーディオデータを
上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する
第1の抽出手段と、
上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、
ストリームの種別データに続けて読出されるフレーム
データの開始アドレスに応じて、上記読み取り手段に
より読み取られたバックデータ内の副映像データを上記
第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第2
の抽出手段と、

10

タかを判断する第2の判断手段と、
この第2の判断手段によりオーディオデータを判断した
際、ストリームの種別データに続けて読出されるフレー
ムデータの開始アドレスに応じて、上記読み取り手段に
より読み取られたバックデータ内のオーディオデータを
上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する
第1の抽出手段と、
上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、
ストリームの種別データに続けて上記読み取り手段に
より読み取られるバックデータ内のデータを上記第1の
判断手段により判断したデータ長分抽出する第2の抽出
手段と、
上記第1あるいは第2の抽出手段により抽出されたデー
タに対して、それぞれ上記第2の判断手段により判断し
たデータの種別に対応した復調を行う復調手段と、
この復調手段により復調されたデータを再生出力する出
力手段と、
を具備したことを特徴とする再生装置。

【請求項21】 一部の領域に管理領域、他の領域にデ
ータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数
のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれの
プログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つ
のプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数
のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが
各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録
されるポケットを有する記録媒体から記録されているバ
ックごとのデータを再生する再生装置において、
上記記録媒体のバックごとのデータを読み取る読み取
り手段と、
この読み取り手段により読み取られたバックのポケットヘッ
ダにプライベートストリームであることを示すデータの有
無を判断するとともにデータ長を判断する第1の判断手
段と、
この第1の判断手段によりプライベートストリームを判
断した際に、続けて読出されるストリームの種別データ
によりデータがドルビーAC3オーディオデータ、リニ
アオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副
映像データかを判断する第2の判断手段と、
この第2の判断手段によりドルビーAC3オーディオデ
ータあるいはリニアオーディオデータを判断した際、ス
トリームの種別データに続けて読出されるフレームデー
タの開始アドレスに応じて、上記読み取り手段により
読み取られたバックデータ内のドルビーAC3オーディオ
データあるいはリニアオーディオデータを上記第1の判
断手段により判断したデータ長分抽出する第1の抽出
手段と、
上記第2の判断手段によりコンピュータデータを判断し
た際、ストリームの種別データに続けて読出される使
用CPUや使用OSの環境情報を抽出するとともに、こ
の環境情報に続けて上記読み取り手段により読み取ら
れるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段に
より判断したデータ長分抽出する第2の抽出手段と、

11

上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記読取手段により読取られるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第3の抽出手段と、上記第1あるいは第3の抽出手段により抽出されたデータに対して、それぞれ上記第2の判断手段により判断したデータの種別に対応した復調を行う復調手段と、この復調手段により復調されたデータを再生出力する第1の出力手段と、

上記第2の抽出手段により抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出力する第2の出力手段と、を具備したことを特徴とする再生装置。

【請求項22】 一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるバケットを有する記録媒体から記録されているバックごとのデータを再生する再生装置において、上記記録媒体のバックごとのデータを読取る読取手段と、

この読取手段により読取られたバックのバケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断する第1の判断手段と、

この第1の判断手段によりプライベートストリームを判断した際に、続けて読出されるストリームの種別データによりデータが特殊再生用のデータ、ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データかを判断する第2の判断手段と、

この第2の判断手段により特殊再生用のデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて読出される特殊再生用のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第1の抽出手段と、

上記第2の判断手段によりドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて読出されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記読取手段により読取られたバックデータ内のドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第2の抽出手段と、上記第2の判断手段によりコンピュータデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて読出される使用CPUや使用OSの環境情報を抽出するとともに、この環境情報に続けて上記読取手段により読取られるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第3の抽出手段と、

12

上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記読取手段により読取られるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第4の抽出手段と、上記第2あるいは第4の抽出手段により抽出されたデータに対して、それぞれ上記第2の判断手段により判断したデータの種別に対応した復調を、上記第1の抽出手段により抽出された特殊再生用のデータを用いて行う復調手段と、

10 この復調手段により復調されたデータを再生出力する第1の出力手段と、

上記第2の抽出手段により抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出力する第2の出力手段と、を具備したことを特徴とする再生装置。

【請求項23】 外部から転送される再生データを受入れ、

この再生データは、時系列的に再生対象とされ、その各々が一定時間範囲内で再生されるべき複数のデータユニットであって、そのデータユニットが、オーディオ、ビデオ及び副映像のいずれかを少なくとも含む圧縮してパケット化した複数のデータバック列から構成され、

この受入れた再生データのバックごとのデータにより、バックのバケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断し、

このプライベートストリームを判断した際に、続けて供給されるストリームの種別データによりデータがオーディオデータ、あるいは副映像データかを判断し、

30 オーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記供給されたバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

上記抽出されたオーディオデータあるいは副映像データに対して、上記判断したデータの種別に対応した復調を行い、

40 この復調されたデータを再生出力し、ことを特徴とする再生方法。

【請求項24】 外部から転送される再生データを受入れ、

この再生データは、時系列的に再生対象とされ、その各々が一定時間範囲内で再生されるべき複数のデータユニットであって、そのデータユニットが、オーディオ、ビデオ及び副映像のいずれかを少なくとも含む圧縮してパケット化した複数のデータバック列から構成され、

40 この受入れた再生データのバックごとのデータにより、バックのバケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長

13

を判断し、

このプライベートストリームを判断した際に、続けて供給されるストリームの種別データによりデータがドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データかを判断し、

ドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記供給されたバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

コンピュータデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給される使用CPUや使用OSの環境情報を抽出するとともに、この環境情報に続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

上記抽出されたドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータあるいは副映像データに対して、上記判断したデータの種別に対応した復調を行い、

この復調されたデータを再生出力し、

上記抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出力することを特徴とする再生方法。

【請求項25】 外部から転送される再生データを受入れ、

この再生データは、時系列的に再生対象とされ、その各々が一定時間範囲内で再生されるべき複数のデータユニットであって、そのデータユニットが、オーディオ、ビデオ及び副映像のいずれかを少なくとも含む圧縮してパケット化した複数のデータバック列から構成され、

この受入れた再生データのバックごとのデータにより、バックのパケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断し、

このプライベートストリームを判断した際に、続けて供給されるストリームの種別データによりデータが特殊再生用のデータ、ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データかを判断し、

特殊再生用のデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給されるバックデータ内の特殊再生用のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

ドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記供給されたバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

コンピュータデータを判断した際、ストリームの種別データ

14

ータに続けて供給される使用CPUや使用OSの環境情報を抽出するとともに、この環境情報に続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記判断したデータ長分抽出し、

上記抽出されたドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータあるいは副映像データに対して、上記判断したデータの種別に対応した復調を上記特殊再生用のデータに基づいて行い、

この復調されたデータを再生出力し、

上記抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出力することを特徴とする再生方法。

【請求項26】 外部から転送される再生データを受入れ、

この再生データは、時系列的に再生対象とされ、その各々が一定時間範囲内で再生されるべき複数のデータユニットであって、そのデータユニットが、オーディオ、ビデオ及び副映像のいずれかを少なくとも含む圧縮してパケット化した複数のデータバック列から構成され、

この受入れた再生データのバックごとのデータにより、バックのパケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断する第1の判断手段と、

この第1の判断手段によりプライベートストリームを判断した際に、続けて供給されるストリームの種別データによりデータがオーディオデータ、あるいは副映像データかを判断する第2の判断手段と、

この第2の判断手段によりオーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記供給されたバックデータ内のオーディオデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第1の抽出手段と、

上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第2の抽出手段と、

上記第1あるいは第2の抽出手段により抽出されたデータに対して、それぞれ上記第2の判断手段により判断したデータの種別に対応した復調を行う復調手段と、この復調手段により復調されたデータを再生出力する出力手段と、

を具備したことを特徴とする再生装置。

【請求項27】 外部から転送される再生データを受入れ、

この再生データは、時系列的に再生対象とされ、その各々が一定時間範囲内で再生されるべき複数のデータユニットであって、そのデータユニットが、オーディオ、ビデオ及び副映像のいずれかを少なくとも含む圧縮してパ

10

20

30

40

50

15

ケット化した複数のデータバック列から構成され、この受入れた再生データのバックごとのデータにより、バックのパケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断する第1の判断手段と、

この第1の判断手段によりプライベートストリームを判断した際に、続けて供給されるストリームの種別データによりデータがドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データかを判断する第2の判断手段と、

この第2の判断手段によりドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記供給されたバックデータ内のドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第1の抽出手段と、

上記第2の判断手段によりコンピュータデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給される使用CPUや使用OSの環境情報を抽出するとともに、この環境情報に続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第2の抽出手段と、

上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第3の抽出手段と、

上記第1あるいは第3の抽出手段により抽出されたデータに対して、それぞれ上記第2の判断手段により判断したデータの種別に対応した復調を行う復調手段と、

この復調手段により復調されたデータを再生出力する第1の出力手段と、

上記第2の抽出手段により抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出力する第2の出力手段と、を具備したことを特徴とする再生装置。

【請求項28】 外部から転送される再生データを受入れ、

この再生データは、時系列的に再生対象とされ、その各々が一定時間範囲内で再生されるべき複数のデータユニットであって、そのデータユニットが、オーディオ、ビデオ及び副映像のいずれかを少なくとも含む圧縮してパケット化した複数のデータバック列から構成され、

この受入れた再生データのバックごとのデータにより、バックのパケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断する第1の判断手段と、

この第1の判断手段によりプライベートストリームを判断した際に、続けて供給されるストリームの種別データによりデータが特殊再生用のデータ、ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュー

16

タデータ、あるいは副映像データかを判断する第2の判断手段と、

この第2の判断手段により特殊再生用のデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給される特殊再生用のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第1の抽出手段と、

上記第2の判断手段によりドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記供給されたバックデータ内のドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第2の抽出手段と、

上記第2の判断手段によりコンピュータデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて供給される使用CPUや使用OSの環境情報を抽出するとともに、この環境情報に続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第3の抽出手段と、

上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記供給されるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第4の抽出手段と、

上記第2あるいは第4の抽出手段により抽出されたデータに対して、それぞれ上記第2の判断手段により判断したデータの種別に対応した復調を、上記第1の抽出手段により抽出された特殊再生用のデータを用いて行う復調手段と、

この復調手段により復調されたデータを再生出力する第1の出力手段と、

上記第2の抽出手段により抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出力する第2の出力手段と、を具備したことを特徴とする再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 この発明は、この発明は、圧縮された動画データや音声データ等の目的や種類の違うデータを記録する光ディスク等の記録媒体、この記録媒体へデータを記録する記録装置、その記録媒体へのデータの記録方法、その記録媒体からデータを再生する再生装置、その記録媒体からのデータの再生方法に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、ディジタル動画像データや音声データを圧縮（符号化）する方式として、MPEG（Moving Picture Experts Group）方式が国際標準化されるに至っている。このMPEG圧縮方式はディジタル動画像データ（映像データ）や音声データを可変長圧縮する方式である。

【0003】 これに伴って、MPEG圧縮方式に対応したシステムフォーマット方式もMPEGシステムレイヤ

10

20

30

40

50

17

として規定されている。

【0004】このMPEGシステムレイヤは、通信系で扱い易いように規定されており、動画、音声、その他のデータを同期して転送かつ再生できるように、それぞれのデータに基準時刻を用いて表現した転送開始時刻と再生開始時刻が規定されている。

【0005】また、上記MPEGシステムレイヤでは、動画圧縮データストリーム(MPEG動画データ)と音声圧縮データストリーム(MPEGオーディオデータ)をストリームIDで、データ種別を規定しているが、そのほかのデータ種別に関しては、プライベートストリームとして、ユーザに解放する形をとっている。

【0006】しかしながら、これでは、ユーザが付け加える事ができるデータ種別が2種類しかサポートできず、拡張性を狭めている。

【0007】これでは、さまざまな種類のデータを自由に扱う事ができず、マルチメディア時代に対応する事ができないという欠点がある。

【0008】また、MPEGオーディオデータ以外のオーディオデータにおいて、パケット長の最大のデータ長が決められている場合、完結したフレームデータブロックのデータ数で上記パケットのデータ長が割り切れない場合に、パケット内に前のデータブロックが入ったりして、このフレームデータブロックの開始アドレスがわからない可能性があり、途中で再生する場合に、再生できない可能性があるという欠点がある。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】この発明は、さまざまな種別データを複数種類取り扱うことができることを目的としている。

【0010】また、取り扱うデータがリニアオーディオデータの場合には、途中からの再生がスムーズにでき、コンピュータデータの時には、使用できる環境が簡単に検出できることを目的としている。

【0011】

【課題を解決するための手段】この発明の記録媒体は、一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域には、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録されており、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが、各バックを識別するためのバックヘッダとデータストリームが記録されるパケットよりなり、上記パケットが少なくともプライベートストリームを示すデータを有するパケットヘッダとプライベートストリームの種別を示すデータとこの種別に対応するパケットデータよりなり、上記管理領域には、上記データ領域のプログラムチェーン、プログラム、セル、バックに対する繋がりを管理する管理データが記録されている。

18

【0012】この発明の記録媒体は、一部の領域に管理領域と、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域には、複数のプログラムが記録されており、1つのプログラムが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが、各バックを識別するためのバックヘッダとデータストリームが記録されるパケットよりなり、上記パケットが少なくともプライベートストリームを示すデータを有するパケットヘッダとプライベートストリームの種別を示すデータとこの種別に対応するパケットデータよりなり、上記管理領域には、上記データ領域の各プログラムとバックに対する繋がりを管理する管理データが記録されている。

【0013】この発明の記録装置は、一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるパケットを有する記録媒体にデータが記録されるものにおいて、オーディオデータ、あるいは副映像データを受入れる受入手段、この受入手段により受入れたオーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとオーディオデータのストリーム番号とオーディオデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第1の形成手段、上記受入手段により受入れた副映像データの一部とこの副映像データのストリーム番号と副映像データを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第2の形成手段、およびこれらの第1乃至第2の形成手段により形成したバックを上記記録媒体に記録する記録手段から構成されている。

【0014】この発明の記録装置は、一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるパケットを有する記録媒体にデータが記録されるものにおいて、ドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データを受入れる受入手段、この受入手段により受入れたドルビーAC3オーディオデー

19

タの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとドルビーAC3オーディオデータのストリーム番号とドルビーAC3オーディオデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第1の形成手段、上記受入手段により受入れたリニアオーディオデータの一部のフレームデータとこのフレームデータの開始アドレスとリニアオーディオデータのストリーム番号とリニアオーディオデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第2の形成手段、上記受入手段により受入れたコンピュータデータの一部とこのコンピュータデータの使用CPUや使用OSの環境情報とコンピュータデータを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第3の形成手段、上記受入手段により受入れた副映像データの一部とこの副映像データのストリーム番号と副映像データを示すデータとからなるパケットデータとこのパケットデータがプライベートストリームであることを示すデータやパケット長を有するパケットヘッダとによるパケットにバックを識別するためのバックヘッダを付与してバックを形成する第4の形成手段、およびこれらの第1乃至第4の形成手段により形成したバックを上記記録媒体に記録する記録手段から構成されている。

【0015】この発明の再生装置は、一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるパケットを有する記録媒体から記録されているバックごとのデータを再生するものにおいて、上記記録媒体のバックごとのデータを読取る読取手段、この読取手段により読取られたバックのパケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断する第1の判断手段、この第1の判断手段によりプライベートストリームを判断した際に、続けて読出されるストリームの種別データによりデータがオーディオデータ、あるいは副映像データかを判断する第2の判断手段、この第2の判断手段によりオーディオデータを判断した際、ス

20

タの開始アドレスに応じて、上記読取手段により読取られたバックデータ内のオーディオデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第1の抽出手段、上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記読取手段により読取られるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第2の抽出手段、上記第1あるいは第2の抽出手段により抽出されたデータに対して、それぞれ上記第2の判断手段により判断したデータの種別に対応した復調を行う復調手段、およびこの復調手段により復調されたデータを再生出力する出力手段から構成されている。

【0016】この発明の再生装置は、一部の領域に管理領域、他の領域にデータ領域が形成され、上記データ領域に、データが複数のプログラムチェーンに分かれて記録され、それぞれのプログラムチェーンが複数のプログラムからなり、1つのプログラムが複数のセルからなり、1つのセルが複数のバックからなる階層構造で記録され、上記各バックが各バックを識別するためのバックヘッダとデータが記録されるパケットを有する記録媒体から記録されているバックごとのデータを再生するものにおいて、上記記録媒体のバックごとのデータを読取る読取手段、この読取手段により読取られたバックのパケットヘッダにプライベートストリームであることを示すデータの有無を判断するとともにデータ長を判断する第1の判断手段、この第1の判断手段によりプライベートストリームを判断した際に、続けて読出されるストリームの種別データによりデータがドルビーAC3オーディオデータ、リニアオーディオデータ、コンピュータデータ、あるいは副映像データかを判断する第2の判断手段、この第2の判断手段によりドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて読出されるフレームデータの開始アドレスに応じて、上記読取手段により読取られたバックデータ内のドルビーAC3オーディオデータあるいはリニアオーディオデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第1の抽出手段、上記第2の判断手段によりコンピュータデータを判断した際、ストリームの種別データに続けて読出される使用CPUや使用OSの環境情報を抽出するとともに、この環境情報に続けて上記読取手段により読取られるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第2の抽出手段、上記第2の判断手段により副映像データを判断した際、ストリームの種別データに続けて上記読取手段により読取られるバックデータ内のデータを上記第1の判断手段により判断したデータ長分抽出する第3の抽出手段、上記第1あるいは第3の抽出手段により抽出されたデータに対して、それぞれ上記第2の判断手段により判断したデータの種別に対応した復調を行う復調手段、この復調手段により復

21

調されたデータを再生出力する第 1 の出力手段、および上記第 2 の抽出手段により抽出されたプログラムデータとその環境情報とを出力する第 2 の出力手段から構成されている。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照してこの発明の実施例に係る光ディスク再生装置を説明する。

【0018】図 1 は、この発明の一実施例に係る光ディスクからデータを再生する光ディスク再生装置のブロックを示し、図 2 は、図 1 に示された光ディスクをドライブするディスクドライブ部のブロックを示し、図 3 は、図 1 及び図 2 に示した光ディスクの構造を示している。

【0019】図 1 に示すように光ディスク再生装置は、キー操作/表示部 4、モニター部 6 及びスピーカー部 8 を具備している。ここで、ユーザがキー操作/表示部 4 を操作することによって光ディスク 10 から記録データが再生される。記録データは、映像データ、副映像データ及び音声データを含み、これらは、ビデオ信号及びオーディオ信号に変換される。モニター部 6 は、ビデオ信号によって映像を表示し、スピーカー部 8 は、オーディオ信号によって音声を発生している。

【0020】既に知られるように光ディスク 10 は、種々の構造がある。この光ディスク 10 には、例えば、図 3 に示すように、高密度でデータが記録される読み出し専用ディスクがある。図 3 に示されるように光ディスク 10 は、一対の複合層 18 とこの複合ディスク層 18 間に介挿された接着層 20 とから構成されている。この各複合ディスク層 18 は、透明基板 14 及び記録層、即ち、光反射層 16 から構成されている。このディスク層 18 は、光反射層 16 が接着層 20 の面上に接触するように配置される。この光ディスク 10 には、中心孔 22 が設けられ、その両面の中心孔 22 の周囲には、この光ディスク 10 をその回転時に押さえる為のクランピング領域 24 が設けられている。中心孔 22 には、光ディスク装置にディスク 10 が装填された際に図 2 に示されたスピンドルモータ 12 のスピンドルが挿入され、ディスクが回転される間、光ディスク 10 は、そのクランピング領域 24 でクランプされる。

【0021】図 3 に示すように、光ディスク 10 は、その両面のクランピング領域 24 の周囲に光ディスク 10 に情報を記録することができる情報領域 25 を有している。各情報領域 25 は、その外周領域が通常は情報が記録されないリードアウト領域 26 に、また、クランピング領域 24 に接するその内周領域が同様に、通常は情報が記録されないリードイン領域 27 に定められ、更に、このリードアウト領域 26 とリードイン領域 27 との間がデータ記録領域 28 に定められている。

【0022】情報領域 25 の記録層 16 には、通常、データが記録される領域としてトラックがスパイラル状に連続して形成され、その連続するトラックは、複数の物

22

理的なセクタに分割され、そのセクタには、連続番号が付され、このセクタを基準にデータが記録されている。情報記録領域 25 のデータ記録領域 28 は、実際のデータ記録領域であって、後に説明するように再生情報、ビデオデータ、副映像データ及びオーディオデータが同様にビット（即ち、物理的状态の変化）として記録されている。読み出し専用の光ディスク 10 では、透明基板 14 にビット列が予めスタンパーで形成され、このビット列が形成された透明基板 14 の面に反射層が蒸着により形成され、その反射層が記録層 16 として形成されることとなる。また、この読み出し専用の光ディスク 10 では、通常、トラックとしてのグループが特に設けられず、透明基板 14 の面に形成されるビット列がトラックとして定められている。

【0023】このような光ディスク装置 12 は、図 1 に示されるように更にディスクドライブ部 30、システム CPU 部 50、システム ROM/RAM 部 52、システムプロセッサ部 54、データ RAM 部 56、ビデオデコーダ部 58、オーディオデコーダ部 60、副映像デコーダ部 62 及び D/A 及びデータ再生部 64 から構成されている。システムプロセッサ部 54 は、システムタイムクロック 54A 及びレジスタ 54B を備え、また、ビデオデコーダ部 58、オーディオデコーダ部 60 及び副映像デコーダ部 62 は、同様にシステムタイムクロック (STC) 58A、60A、62A を備えている。

【0024】図 2 に示すようにディスクドライブ部 30 は、モータドライブ回路 11、スピンドルモータ 12、光学ヘッド 32（即ち、光ピックアップ）、フィードモータ 33、フォーカス回路 36、フィードモータ駆動回路 37、トラッキング回路 38、ヘッドアンプ 40 及びサーボ処理回路 44 を具備している。光ディスク 10 は、モータ駆動回路 11 によって駆動されるスピンドルモータ 12 上に載置され、このスピンドルモータ 12 によって回転される。光ディスク 10 にレーザビームを照射する光学ヘッド 32 が光ディスク 10 の下に置かれている。また、この光学ヘッド 32 は、ガイド機構（図示せず）上に載置されている。フィードモータ駆動回路 37 がフィードモータ 33 に駆動信号を供給する為に設けられている。モータ 33 は、駆動信号によって駆動されて光学ヘッド 32 を光ディスク 10 の半径方向に移動している。光学ヘッド 32 は、光ディスク 10 に対向される対物レンズ 34 を備えている。対物レンズ 34 は、フォーカス回路 36 から供給される駆動信号に従ってその光軸に沿って移動される。

【0025】上述した光ディスク 10 からデータを再生するには、光学ヘッド 32 が対物レンズ 34 を介してレーザビームを光ディスク 10 に照射される。この対物レンズ 34 は、トラッキング回路 38 から供給された駆動信号に従って光ディスク 10 の半径方向に微動される。また、対物レンズ 34 は、その焦点が光ディスク 10 の

23

記録層 16 に位置されるようにフォーカシング回路 36 から供給された駆動信号に従ってその光軸方向に沿って微動される。その結果、レーザビームは、最小ビームスポットをスパイラルトラック（即ち、ピット列）上に形成され、トラックが光ビームスポットで追跡される。レーザビームは、記録層 16 から反射され、光学ヘッド 32 に戻される。光ヘッド 32 では、光ディスク 10 から反射された光ビームを電気信号に変換し、この電気信号は、光ヘッド 32 からヘッドアンプ 40 を介してサーボ処理回路 44 に供給される。サーボ処理回路 44 では、電気信号からフォーカス信号、トラッキング信号及びモータ制御信号を生成し、これらの信号を夫々フォーカス回路 36、トラッキング回路 38、モータ駆動回路 11 に供給している。

【0026】従って、対物レンズ 34 がその光軸及び光ディスク 10 の半径方向に沿って移動され、その焦点が光ディスク 10 の記録層 16 に位置され、また、レーザビームが最小ビームスポットをスパイラルトラック上に形成する。また、モータ駆動回路 11 によってスピンドルモータ 12 が所定の回転数で回転される。その結果、光ディスク 10 のピット列が光ビームで、例えば、線速一定で追跡される。

【0027】図 1 に示されるシステム CPU 部 50 からアクセス信号としての制御信号がサーボ処理回路 44 に供給される。この制御信号に応答してサーボ処理回路 44 からヘッド移動信号がフィードモータ駆動回路 37 に供給されてこの回路 37 が駆動信号をフィードモータ 33 に供給することとなる。従って、フィードモータ 33 が駆動され、光ヘッド 32 が光ディスク 10 の半径方向に沿って移動される。そして、光学ヘッド 32 によって光ディスク 10 の記録層 16 に形成された所定のセクタがアクセスされる。再生データは、その所定のセクタから再生されて光学ヘッド 32 からヘッドアンプ 40 に供給され、このヘッドアンプ 40 で増幅され、ディスクドライバ部 30 から出力される。

【0028】出力された再生データは、システム用 ROM 及び RAM 部 52 に記録されたプログラムで制御されるシステム CPU 部 50 の管理下でシステムプロセッサ部 54 によってデータ RAM 部 56 に格納される。この格納された再生データは、システムプロセッサ部 54 によって処理されてビデオデータ、オーディオデータ及び副映像データに分類され、ビデオデータ、オーディオデータ及び副映像データは、夫々ビデオデコード部 58、オーディオデコード部 60 及び副映像デコード部 62 に出力されてデコードされる。デコードされたビデオデータ、オーディオデータ及び副映像データは、D/A 及び再生処理回路 64 でアナログ信号としてのビデオ信号、オーディオ信号に変換されるとともにビデオ信号がモニタ 6 に、また、オーディオ信号がスピーカ部 8 に夫々供給される。その結果、ビデオ信号及び副映像信号によ

24

てモニタ部 6 に映像が表示されるとともにオーディオ信号によってスピーカ部 8 から音声が再現される。

【0029】図 1 に示す光ディスク装置の詳細な動作については、次に説明する光ディスク 10 の論理フォーマットを参照して後により詳細に説明する。

【0030】図 1 に示される光ディスク 10 のリードインエリア 27 からリードアウトエリア 26 までのデータ記録領域 28 は、図 4 に示されるようなボリューム及びファイル構造を有している。この構造は、論理フォーマットとして特定の規格、例えば、マイクロ UDF (micro UDF) 及び ISO 9660 に準拠されて定められている。データ記録領域 28 は、既に説明したように物理的に複数のセクタに分割され、その物理的セクタには、連続番号が付されている。下記の説明で論理アドレスは、マイクロ UDF (micro UDF) 及び ISO 9660 で定められるように論理セクタ番号 (LSN) を意味し、論理セクタは、物理セクタのサイズと同様に 2048 バイトであり、論理セクタの番号 (LSN) は、物理セクタ番号の昇順とともに連続番号が付加されている。

【0031】図 4 に示されるようにこのボリューム及びファイル構造は、階層構造を有し、ボリューム及びファイル構造領域 70、ビデオマネージャ 71、少なくとも 1 以上のビデオタイトルセット 72 及び他の記録領域 73 を有している。これら領域は、論理セクタの境界上で区分されている。ここで、従来の CD と同様に 1 論理セクタは、2048 バイトと定義されている。同様に、1 論理ブロックも 2048 バイトと定義され、従って、1 論理セクタは、1 論理ブロックと定義される。

【0032】ファイル構造領域 70 は、マイクロ UDF 及び ISO 9660 に定められる管理領域に相当し、この領域の記述を介してビデオマネージャ 71 がシステム ROM/RAM 部 52 に格納される。ビデオマネージャ 71 には、図 5 を参照して説明するようにビデオタイトルセットを管理する情報が記述され、ファイル #0 から始まる複数のファイル 74 から構成されている。また、各ビデオタイトルセット 72 には、後に説明するように圧縮されたビデオデータ、オーディオデータ及び副映像データ及びこれらの再生情報が格納され、同様に複数のファイル 74 から構成されている。ここで、複数のビデオタイトルセット 72 は、最大 99 個に制限され、また、各ビデオタイトルセット 72 を構成するファイル 74 (File #j から File #j+9) の数は、最大 10 個に定められている。これらファイルも同様に論理セクタの境界で区分されている。

【0033】他の記録領域 73 には、上述したビデオタイトルセット 72 を利用可能な情報が記録されている。この他の記録領域 73 は、必ずしも設けられなくとも良い。

【0034】図 5 に示すようにビデオマネージャ 71 は、夫々が各ファイル 74 に相当する 3 つの項目を含ん

25

でいる。即ち、ビデオマネージャー71は、ビデオマネージャー情報 (VMGI) 75、ビデオマネージャー情報メニューの為のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76及びビデオマネージャー情報のバックアップ (VMGI_BUP) 77から構成されている。ここで、ビデオマネージャー情報 (VMGI) 75及びビデオマネージャー情報のバックアップ77 (VMGI_BUP) 77は、必須の項目とされ、ビデオマネージャー情報メニューの為のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76は、オプションとされている。このVMGM用のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76には、ビデオマネージャー71が管理する当該光ディスクのボリュームに関するメニューのビデオデータ、オーディオデータ及び副映像データが格納されている。

【0035】このVMGM用のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76によって後に説明されるビデオの再生のように当該光ディスクのボリューム名、ボリューム名表示に伴う音声及び副映像の説明が表示されるとともに選択可能な項目が副映像で表示される。例えば、VMGM用のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76によって当該光ディスクがあるボクサーのワールドチャンピオンに至るまでの試合を格納したビデオデータである旨、即ち、ボクサーXの栄光の歴史等のボリューム名とともにボクサーXのファイティングポーズがビデオデータで再生されるとともに彼のテーマソングが音声で再生され、副映像で彼の年表等が表示される。また、選択項目として試合のナレーションを英語、日本語等のいずれの言語を選択するかが問い合わされるとともに副映像で他の言語の字幕を表示するか、また、いずれの言語の字幕を選択するか否かが問い合わされる。このVMGM用のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76によってユーザは、例えば、音声は、英語で副映像として日本語の字幕を採用してボクサーXの試合のビデオを鑑賞する準備が整うこととなる。

【0036】ここで、図6を参照してビデオオブジェクトセット (VOBS) 82の構造について説明する。図6は、ビデオオブジェクトセット (VOBS) 82の一例を示している。このビデオオブジェクトセット (VOBS) 82には、2つのメニュー用及びタイトル用として3つのタイプのビデオオブジェクトセット (VOBS) 76、95、96がある。即ち、ビデオオブジェクトセット (VOBS) 82は、後に説明するようにビデオタイトルセット (VTS) 72中にビデオタイトルセットのメニュー用ビデオオブジェクトセット (VTSM_VOBS) 95及び少なくとも1つ以上のビデオタイトルセットのタイトルの為のビデオオブジェクトセット (VTSTT_VOBS) 96があり、いずれのビデオオブジェクトセット82もその用途が異なるのみで同様

26

の構造を有している。

【0037】図6に示すようにビデオオブジェクトセット (VOBS) 82は、1個以上のビデオオブジェクト (VOB) 83の集合として定義され、ビデオオブジェクトセット (VOBS) 82中のビデオオブジェクト83は、同一の用途の供される。通常、メニュー用のビデオオブジェクトセット (VOBS) 82は、1つのビデオオブジェクト (VOB) 83で構成され、複数のメニュー用の画面を表示するデータが格納される。これに対してタイトルセット用のビデオオブジェクトセット (VTSTT_VOBS) 82は、通常、複数のビデオオブジェクト (VOB) 83で構成される。

【0038】ここで、ビデオオブジェクト (VOB) 83は、上述したボクシングのビデオを例にすれば、ボクサーXの各試合の映像データに相当し、ビデオオブジェクト (VOB) を指定することによって例えば、ワールドチャンピオンに挑戦する第11戦をビデオで再現することができる。また、ビデオタイトルセット72のメニュー用ビデオオブジェクトセット (VTSM_VOBS) 95には、そのボクサーXの試合のメニューデータが格納され、そのメニューの表示に従って、特定の試合、例えば、ワールドチャンピオンに挑戦する第11戦を指定することができる。尚、通常の1ストーリーの映画では、1ビデオオブジェクト (VOB) 83が1ビデオオブジェクトセット (VOBS) 82に相当し、1ビデオストリームが1ビデオオブジェクトセット (VOBS) 82で完結することとなる。また、アニメ集、或いは、オムニバス形式の映画では、1ビデオオブジェクトセット (VOBS) 82中に各ストーリーに対応する複数のビデオストリームが設けられ、各ビデオストリームが対応するビデオオブジェクトに格納されている。従って、ビデオストリームに関連したオーディオストリーム及び副映像ストリームも各ビデオオブジェクト (VOB) 83中で完結することとなる。

【0039】ビデオオブジェクト (VOB) 83には、識別番号 (IDN#j) が付され、この識別番号によってそのビデオオブジェクト (VOB) 83を特定することができる。ビデオオブジェクト (VOB) 83は、1又は複数のセル84から構成される。通常のビデオストリームは、複数のセルから構成されることとなるが、メニュー用のビデオストリーム、即ち、ビデオオブジェクト (VOB) 83は、1つのセル84から構成される場合もある。同様にセルには、識別番号 (C_IDN#j) が付され、このセル識別番号 (C_IDN#j) によってセル84が特定される。

【0040】図6に示すように各セル84は、1又は複数のビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85、通常は、複数のビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85から構成される。ここで、ビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85は、1つのナビゲーションパック

27

(NVバック) 86を先頭に有するバック列として定義される。即ち、ビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85は、あるナビゲーションバック86から次のナビゲーションバックの直前まで記録される全バックの集まりとして定義される。このビデオオブジェクトユニット (VOBU) の再生時間は、図6に示すようにビデオオブジェクトユニット (VOBU) 中に含まれる単数又は複数個のGOPから構成されるビデオデータの再生時間に相当し、その再生時間は、0.4秒以上であって1秒より大きくならないように定められる。MPEGでは、1GOPは、通常0.5秒であってその間に15枚程度の画像が再生する為の圧縮された画面データであると定められている。

【0041】図6に示すようにビデオオブジェクトユニットがビデオデータを含む場合には、MPEG規格に定められたビデオバック (Vバック) 87、副映像バック (SPバック) 90、及びオーディオバック (Aバック) 91 (コンピュータデータバック (Cバック) 88) から構成されるGOPが配列されてビデオデータストリームが構成されるが、このGOPの数とは、無関係にGOPの再生時間を基準にしてビデオオブジェクト (VOBU) 83が定められ、その先頭には、常にナビゲーションバック (NVバック) 86が配列される。また、オーディオ及び/又は副映像データのための再生データにあってもこのビデオオブジェクトユニットを1単位として再生データが構成される。即ち、オーディオバック91のみでビデオオブジェクトユニットが構成されても、ビデオデータのビデオオブジェクトと同様にそのオーディオデータが属するビデオオブジェクトユニットの再生時間内に再生されるべきオーディオバック91がそのビデオオブジェクトユニットに格納される。これらバックの再生の手順に関しては、ナビゲーションバック (NVバック) 86とともに後に詳述する。

【0042】再び図5を参照してビデオマネージャ71について説明する。ビデオマネージャ71の先頭に配置されるビデオマネージャ情報75は、タイトルをサーチする為の情報、ビデオマネージャメニューの再生の為の情報のようなビデオタイトルセット (VTS) 72を管理する情報が記述され、図5に示す順序で少なくとも3つのテーブル78、79、80が記録されている。この各テーブル78、79、80は、論理セクタの境界に一致されている。第1のテーブルであるビデオマネージャ情報管理テーブル (VMGI_MAT) 78は、必須のテーブルであってビデオマネージャ71のサイズ、このビデオマネージャ71中の各情報のスタートアドレス、ビデオマネージャ情報メニュー用のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76に関する属性情報等が記述されている。

【0043】また、ビデオマネージャ71の第2のテーブルであるタイトルサーチポインターテーブル (TT

28

_SRPT) 79には、装置のキー及び表示部4からのタイトル番号の入力に応じて選定可能な当該光ディスク10中のボリュームに含まれるビデオタイトルのエンタープログラムチェーン (EPGC) が記載されている。

【0044】ここで、プログラムチェーン187とは、図7に示すようにあるタイトルのストーリーを再現するプログラム189の集合であってプログラムチェーンが連続して再現されることによってある1タイトルの映画が完結される。従って、ユーザーは、プログラムチェーン187内のプログラム189を指定することによって映画の特定のシーンからその映画を鑑賞することができる。

【0045】ビデオマネージャ71の第3のテーブルであるビデオタイトルセット属性テーブル (VTS_ATTRT) 80には、当該光ディスクのボリューム中のビデオタイトルセット (VTS) 72に定められた属性情報が記載される。即ち、属性情報としてビデオタイトルセット (VTS) 72の数、ビデオタイトルセット (VTS) 72の番号、ビデオの属性、例えば、ビデオデータの圧縮方式等、オーディオストリームの属性、例えば、オーディオの符号化モード等、副映像の属性、例えば、副映像の表示タイプ等がこのテーブルに記載されている。

【0046】ビデオマネージャ情報管理テーブル (VMGI_MAT) 78及びタイトルサーチポインターテーブル (TT_SRPT) 79に記載の記述内容の詳細について、図8、図9、図10及び図11を参照して次に説明する。

【0047】図8に示すようにビデオマネージャ情報管理テーブル (VMGI_MAT) 78には、ビデオマネージャ71の識別子 (VMG_ID)、論理ブロック (既に説明したように1論理ブロックは、2048バイト) の数でビデオ管理情報のサイズ (VMGI_SZ)、当該光ディスク、通称、デジタルバーサタイルディスク (デジタル多用途ディスク：以下、単にDVDと称する。) の規格に関するバージョン番号 (VERN) 及びビデオマネージャ71のカテゴリー (VMG_CAT) が記載されている。

【0048】ここで、ビデオマネージャ71のカテゴリー (VMG_CAT) には、このDVDビデオディレクトリがコピーを禁止であるか否かのフラグ等が記載される。また、このテーブル (VMGI_MAT) 78には、ボリュームセットの識別子 (VLMS_ID)、ビデオタイトルセットの数 (VTS_Ns)、このディスクに記録されるデータの供給者の識別子 (PVR_ID)、ビデオマネージャメニューの為のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76のスタートアドレス (VNGM_VOBS_SA)、ビデオマネージャ情報の管理テーブル (VMGI_MAT) 78の終

29

アドレス (VMGI_MAT_EA)、タイトルサーチポインターテーブル (TT_SRPT) 79のスタートアドレス (TT_SRPT_SA) が記載されている。VMG_MAT 78の終了アドレス (VMGI_MAT_EA) 及びTT_SRPT 79のスタートアドレス (TT_SRPT_SA) は、先頭の論理ブロックからの相対的な論理ブロック数で記載されている。

【0049】更に、このテーブル78には、ビデオタイトルセット (VTS) 72の属性テーブル (VTS_ATTR) 80のスタートアドレス (VTS_ATTR_SA) がVMGIマネージャテーブル (VMGI_MAT) 71の先頭バイトからの相対的なバイト数で記載され、ビデオマネージャメニュー (VMGM) のビデオ属性 (VMGM_V_ATTR) が記載されている。更にまた、このテーブル78には、ビデオマネージャメニュー (VMGM) のオーディオストリームの数 (VMGM_AST_Ns)、ビデオマネージャメニュー (VMGM) のオーディオストリームの属性 (VMGM_AST_ATTR)、ビデオマネージャメニュー (VMGM) の副映像ストリームの数 (VMGM_SPST_Ns) 及びビデオマネージャメニュー (VMGM) の副映像ストリームの属性 (VMGM_SPST_ATTR) が記載されている。

【0050】タイトルサーチポインターテーブル (TT_SRPT) 79には、図9に示すように始めにタイトルサーチポインターテーブルの情報 (TSPTI) が記載され、次に入力番号1からn ($n \leq 99$) に対するタイトルサーチポインタ (TT_SRP) が必要な数だけ連続的に記載されている。この光ディスクのボリューム中に1タイトルの再生データ、例えば、1タイトルのビデオデータしか格納されていない場合には、1つのタイトルサーチポインタ (TT_SRP) 93しかこのテーブル (TT_SRPT) 79に記載されない。

【0051】タイトルサーチポインターテーブル情報 (TSPTI) 92には、図10に示されるようにエントリープログラムチェーンの数 (EN_PGC_Ns) 及びタイトルサーチポインタ (TT_SRP) 93の終了アドレス (TT_SRPT_EA) が記載されている。このアドレス (TT_SRPT_EA) は、このタイトルサーチポインタテーブル (TT_SRPT) 79の先頭バイトからの相対的なバイト数で記載される。また、図11に示すように各タイトルサーチポインタ (TT_SRP) 93には、ビデオタイトルセット番号 (VTSN)、プログラムチェーン番号 (PGCN) 及びビデオタイトルセット72のスタートアドレス (VTS_SA) が記載されている。

【0052】このタイトルサーチポインタ (TT_SRP) 93の内容によって再生されるビデオタイトルセット (VTS) 72、また、プログラムチェーン (PGC) が特定されるとともにそのビデオタイトルセット7

30

2の格納位置が特定される。ビデオタイトルセット72のスタートアドレス (VTS_SA) は、ビデオタイトルセット番号 (VTSN) で指定されるタイトルセットを論理ブロック数で記載される。

【0053】次に、図4に示されたビデオタイトルセット (VTS) 72の論理フォーマットの構造について図12を参照して説明する。各ビデオタイトルセット (VTS) 72には、図12に示すようにその記載順に4つの項目94、95、96、97が記載されている。また、各ビデオタイトルセット (VTS) 72は、共通の属性を有する1又はそれ以上のビデオタイトルから構成され、このビデオタイトル72についての管理情報、例えば、エントリサーチポイントの為の情報、ビデオオブジェクトセット96を再生する為の情報、タイトルセットメニュー (VTSM) を再生する為の情報及びビデオオブジェクトセット72の属性情報がビデオタイトルセット情報 (VTSI) に記載されている。

【0054】このビデオタイトルセット情報 (VTSI) 94のバックアップがビデオタイトルセット (VTS) 72に設けられている。ビデオタイトルセット情報 (VTSI) 94とこの情報のバックアップ (VTSI_BUP) 97との間には、ビデオタイトルセットメニュー用のビデオオブジェクトセット (VTSM_VOBS) 95及びビデオタイトルセットタイトル用のビデオオブジェクトセット (VTSTT_VOBS) 96が配置されている。いずれのビデオオブジェクトセット (VTSM_VOBS及びVTSTT_VOBS) 95、96は、既に説明したように図6に示す構造を有している。

【0055】ビデオタイトルセット情報 (VTSI) 94、この情報のバックアップ (VTSI_BUP) 97及びビデオタイトルセットタイトル用のビデオオブジェクトセット (VTSTT_VOBS) 96は、ビデオタイトルセット72にとって必須の項目され、ビデオタイトルセットメニュー用のビデオオブジェクトセット (VTSM_VOBS) 95は、必要に応じて設けられるオプションとされている。

【0056】ビデオタイトルセット情報 (VTSI) 94は、図12に示すように4つのテーブル98、99、100、101から構成され、4つのテーブル98、99、100、101は、論理セクタ間の境界に一致されている。第1のテーブルであるビデオタイトルセット情報管理テーブル (VTSI_MAT) 98は、必須のテーブルであってビデオタイトルセット (VTS) 72のサイズ、ビデオタイトルセット (VTS) 72中の各情報の開始アドレス及びビデオタイトルセット (VTS) 72中のビデオオブジェクトセット (VOBS) 82の属性が記述されている。

【0057】第2のテーブルであるビデオタイトルセットダイレクトアクセスポインタテーブル (VTS_DA

31

PT) 99は、必要に応じて設けられるオプションのテーブルであって、装置のキー操作/表示部4からのタイトル番号の入力に応じて選定可能な当該ビデオタイトルセット72中に含まれるプログラムチェーン(PGC)及び又はプログラム(PG)が記載されている。

【0058】第3のテーブルであるビデオタイトルセットプログラムチェーン情報テーブル(VTS_PGCIT) 100は、必須のテーブルであってVTSプログラムチェーン情報(VTS_PGC I)を記述している。第4のテーブルであるビデオタイトルセットタイムサーチマップテーブル(VTS_MAPT) 101は、必要に応じて設けられるオプションのテーブルであって表示の一定時間に対するこのマップテーブル(VTS_MAPT) 101が属するタイトルセット72の各プログラムチェーン(PGC)内のビデオデータの記録位置に関する情報が記述されている。

【0059】次に、図12に示したビデオタイトル情報マネージャータブル(VTSI_MAT) 98及びビデオタイトルセットプログラムチェーン情報テーブル(VTS_PGCIT) 100について図13から図20を参照して説明する。

【0060】図13は、ビデオタイトル情報マネージャータブル(VTSI_MAT) 98の記述内容を示している。このテーブル(VTSI_MAT) 98には、記載順にビデオタイトルセット識別子(VTS_ID)、ビデオタイトルセット72のサイズ(VTS_SZ)、このDVDビデオ規格のバージョン番号(VERN)、タイトルセット72の属性(VTS_CAT)が記載される。また、このテーブル(VTSI_MAT) 98には、VTSメニュー(VTSM)のビデオオブジェクトセット(VTSM_VOBS) 95の開始アドレス(VTSM_VOBS_SA)がこのビデオタイトルセット(VTS) 72の先頭論理ブロックからの相対論理ブロック(RLBN)で記述され、ビデオタイトルセット(VTS)におけるタイトルの為のビデオオブジェクトのスタートアドレス(VTSTT_VOBSA)がこのビデオタイトルセット(VTS) 72の先頭論理ブロックからの相対論理ブロック(RLBN)で記述される。

【0061】更に、このテーブル(VTSI_MAT) 98には、ビデオタイトルセット情報管理テーブル(VTI_MAT) 94の終了アドレス(VTI_MAT_EA)がそのテーブル(VTI_MAT)の先頭バイトからの相対ブロック数で記載され、ビデオタイトルセットダイレクトアクセスポインタテーブル(VTS_DAPT) 99のスタートアドレス(VTS_DAPT_SA)がビデオタイトルセット情報(VTSI) 94の先頭バイトからの相対ブロック数で記載されている。

【0062】更にまた、このテーブル(VTSI_MAT) 98には、ビデオタイトルセットプログラムチェー

32

ン情報テーブル(PGCIT) 100のスタートアドレス(VTS_PGCIT_SA)がビデオタイトルセット情報(VTSI) 94の先頭バイトからの相対ブロック数で記載され、ビデオタイトルセット(VTS)のタイムサーチマップ(VTS_MAPT) 101のスタートアドレス(VTS_MAPT_SA)がこのビデオタイトルセット(VTS) 72の先頭論理セクタからの相対論理セクタで記述される。このテーブル(VTSI_MAT) 98には、ビデオタイトルセット(VTS) 72中のビデオタイトルセットメニュー(VTSM)の為のビデオオブジェクトセット(VTSM_VOBS) 95及びビデオタイトルセット(VTS)のタイトル(VTSTT)の為のビデオオブジェクトセット(VTST_VOBS) 96のビデオ属性(VTS_V_ATR)及びこのビデオタイトルセット(VTS) 72中のビデオタイトルセットのタイトル(VTSTT)の為のビデオオブジェクトセット(VTSTT_VOBS) 96のオーディオストリーム(VTS_AST_Ns)の数が記載されている。

【0063】ここで、ビデオ属性(VTS_V_ATR)には、ビデオの圧縮モード、TVシステムのフレームレート及び表示装置に表示する際の表示のアスペクト比等が記載されている。

【0064】テーブル(VTSI_MAT) 98には、ビデオタイトルセット(VTS) 72中のビデオタイトルセット(VTS) 72のタイトル(VTSTT)の為のビデオオブジェクトセット(VTST_VOBS) 96のオーディオストリーム属性(VTS_AST_ATR)が記載されている。この属性(VTS_AST_ATR)には、どのようにオーディオを符号化したかを記載したオーディオの符号化モード、オーディオの量子化を何ビットで実行したか、オーディオのチャンネル数等が記載される。更に、テーブル(VTSI_MAT) 98には、ビデオタイトルセット(VTS) 72中のこのタイトル(VTSTT)の為のビデオオブジェクトセット(VTST_VOBS) 96の副映像ストリームの数(VTS_SPST_Ns)及び各副映像ストリームの属性(VTS_SPST_ATR)が記載されている。この各副映像ストリームの属性(VTS_SPST_ATR)には、副映像の符号化モード及び副映像の表示タイプ等が記載される。

【0065】また、このテーブル(VTSI_MAT) 98には、ビデオタイトルセットメニュー(VTSM)のオーディオストリーム数(VTSM_AST_Ns)、オーディオストリーム属性(VTSM_AST_ATR)、副映像ストリームの数(VTSM_SPST_Ns)、及び副映像ストリームの属性(VTSM_SPST_ATR)が記述されている。

【0066】VTSプログラムチェーン情報テーブル(VTS_PGCIT) 100は、図14に示すような

構造を備えている。この情報テーブル (VTS_PGCIT) 100には、VTSプログラムチェーン (VTS_PGC) に関する情報 (VTS_PGCI) が記載され、始めの項目としてVTSプログラムチェーン (VTS_PGC) に関する情報テーブル (VTS_PGCIT) 100の情報 (VTS_PGCIT_I) 102が設けられている。この情報 (VTS_PGCIT_I) 102に続いてこの情報テーブル (VTS_PGCIT) 100には、この情報テーブル (VTS_PGCIT) 100中のVTSプログラムチェーン (VTS_PGC) の数 (#1から#n) だけVTSプログラムチェーン (VTS_PGC) をサーチするVTS_PGCIサーチポインタ (VTS_PGCIT_SRP) 103が設けられ、最後にVTSプログラムチェーン (VTS_PGC) に対応した数 (#1から#n) だけ各VTSプログラムチェーン (VTS_PGC) に関する情報 (VTS_PGCI) 104が設けられている。

【0067】VTSプログラムチェーン情報テーブル (VTS_PGCIT) 100の情報 (VTS_PGCIT_I) 102には、図15に示されるようにVTSプログラムチェーン (VTS_PGC) の数 (VTS_PGC_Ns) が内容として記述され及びこのテーブル情報 (VTS_PGCIT_I) 102の終了アドレス (VTS_PGCIT_EA) がこの情報テーブル (VTS_PGCIT) 100の先頭バイトからの相対的なバイト数で記述されている。

【0068】また、VTS_PGCITサーチポインタ (VTS_PGCIT_SRP) 103には、図16に示すようにビデオタイトルセット (VTS) 72のプログラムチェーン (VTS_PGC) の属性 (VTS_PGC_CAT) 及びこのVTS_PGC情報テーブル (VTS_PGCIT) 100の先頭バイトからの相対的なバイト数でVTS_PGC情報 (VTS_PGCI) のスタートアドレス (VTS_PGCI_SA) が記述されている。ここで、VTS_PGC属性 (VTS_PGC_CAT) には、属性として例えば、最初に再生されるエントリープログラムチェーン (エントリーPGC) か否かが記載される。

【0069】通常、エントリープログラムチェーン (PGC) は、エントリープログラムチェーン (PGC) でないプログラムチェーン (PGC) に先だって記載される。

【0070】ビデオタイトルセット内のPGC情報 (VTS_PGCI) 104には、図17に示すように4つ項目が記載されている。このPGC情報 (VTS_PGCI) 104には、始めに必須項目のプログラムチェーン一般情報 (PGC_GI) 105が記述され、これに続いてビデオオブジェクトがある場合だけ必須の項目とされる少なくとも3つの項目106、107、108が記載されている。即ち、その3つの項目としてプログラ

ムチェーンプログラムマップ (PGC_PGMAP) 106、セル再生情報テーブル (C_PBIT) 107及びセル位置情報テーブル (C_POSIT) 108がPGC情報 (VTS_PGCI) 104に記載されている。

【0071】プログラムチェーン一般情報 (PGC_GI) 105には、図18に示すようにプログラムチェーン (PGC) のカテゴリ (PGCI_CAT)、プログラムチェーン (PGC) の内容 (PGC_CNT) 及びプログラムチェーン (PGC) の再生時間 (PGC_PB_TIME) が記載されている。PGCのカテゴリ (PGCI_CAT) には、当該PGCのコピーが可能であるか否か及びこのPGC中のプログラムの再生が連続であるか或いはランダム再生であるか否か等が記載される。PGCの内容 (PGC_CNT) には、このプログラムチェーンの構成内容、即ち、プログラム数、セルの数、このプログラムチェーン中のアングルの数が記載される。PGCの再生時間 (PGC_PB_TIME) には、このPGC中のプログラムのトータル再生時間等が記載される。この再生時間は、再生手順には無関係に連続してPGC内のプログラムを再生する場合のプログラムの再生時間が記述される。

【0072】また、プログラムチェーン一般情報 (PGC_GI) 105には、PGC副映像ストリーム制御 (PGC_SPST_CTL)、PGCオーディオストリーム制御 (PGC_AST_CTL) 及びPGC副映像パレット (PGC_SP_PLT) が記載されている。PGC副映像ストリーム制御 (PGC_SPST_CTL) には、PGCで使用可能な副映像数が記載され、PGCオーディオストリーム制御 (PGC_AST_CTL) には、同様にPGCで使用可能なオーディオストリームの数が記載される。PGC副映像パレット (PGC_SP_PLT) には、このPGCの全ての副映像ストリームで使用する所定数のカラーパレットのセットが記載される。

【0073】更に、PGC一般情報 (PGC_GI) 105には、セル再生情報テーブル (C_PBIT) 107のスタートアドレス (C_PBIT_SA) 及びセル位置情報テーブル (C_POSIT) 108のスタートアドレス (C_POSIT_SA) が記載されている。いずれのスタートアドレス (C_PBIT_SA及びC_POSIT_SA) もVTS_PGC情報 (VTS_PGCI) の先頭バイトからの相対的な論理ブロック数で記載される。

【0074】プログラムチェーンプログラムマップ (PGC_PGMAP) 106は、図19に示すようにPGC内のプログラムの構成を示すマップである。このマップ (PGC_PGMAP) 106には、図19及び図20に示すようにプログラムの開始セル番号であるエントリーセル番号 (ECELLN) がセル番号の昇順に記述

されている。また、エントリーセル番号の記述順にプログラム番号が1から割り当てられている。従って、このマップ (PGC_PGMAP) 106の最初のエントリーセル番号は、# 1でなければならない。

【0075】セル再生情報テーブル (C_PBIT) 107は、PGCのセルの再生順序を定義している。このセル再生情報テーブル (C_PBIT) 107には、図21に示すようにセル再生情報 (C_PBIT) が連続して記載されている。基本的には、セルの再生は、そのセル番号の順序で再生される。セル再生情報 (C_PBIT) には、図22に示されるようにセルカテゴリー (C_CAT) が記載される。このセルカテゴリー (C_CAT) には、セルがセルブロック中のセルであるか、また、セルブロック中のセルであれば最初のセルであるかを示すセルブロックモード、セルがブロック中の一部ではない、或いは、アングルブロックであるかを示すセルブロックタイプ、システムタイムクロック (STC) の再設定の可否を示すSTC不連続フラグが記載される。

【0076】また、このセルカテゴリー (C_CAT) には、セル内では連続して再生するか或いはセル内の各ビデオオブジェクトユニット (VOBU) 単位で静止するかを示すセル再生モード、セルの再生の後に静止させるか否か或いはその静止時間を示すセルナビゲーション制御が記載されている。

【0077】また、図22に示すようにセル再生情報テーブル (C_PBIT) 107は、PGCの全再生時間を記述したセル再生時間 (C_PBTM) を含んでいる。アングルセルブロックがPGC中にある場合には、そのアングルセル番号1の再生時間がそのアングルブロックの再生時間を表している。更に、セル再生情報テーブル (C_PBIT) 107には、当該セルが記録されているビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85の先頭論理セクタからの相対的な論理セクタ数でセル中の先頭ビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85のスタートアドレス (C_FVOBU_SA) が記載され、また、当該セルが記録されているビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85の先頭論理セクタからの相対的な論理セクタ数でセル中の最終ビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85のスタートアドレス (C_LVOBU_SA) が記載される。

【0078】セル位置情報テーブル (C_POSI) 108は、PGC内で使用するセルのビデオオブジェクト (VOB) の識別番号 (VOB_ID) 及びセルの識別番号 (C_ID) を特定している。セル位置情報テーブル (C_POSI) には、図23に示されるようにセル再生情報テーブル (C_PBIT) 107に記載されるセル番号に対応するセル位置情報 (C_POSI) がセル再生情報テーブル (C_PBIT) と同一順序で記載される。このセル位置情報 (C_POSI) には、図2

4に示すようにセルのビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85の識別番号 (C_VOBU_IDN) 及びセル識別番号 (C_IDN) が記述されている。

【0079】図6を参照して説明したようにセル84は、ビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85の集合とされ、ビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85は、ナビゲーション (NV) バック86から始まるバック列として定義される。従って、セル84中の最初のビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85のスタートアドレス (C_FVOBU_SA) は、NVバック86のスタートアドレスを表すこととなる。このNVバック86は、図25に示すようにバックヘッダ110、システムヘッダ111及びナビゲーションデータとしての2つのパケット、即ち、再生制御情報 (PCI) パケット116及びデータサーチ情報 (DSI) パケット117から成る構造を有し、図25に示すようなバイト数が各部に付与され、1バックが1論理セクタに相当する2048バイトに定められている。また、このNVバックは、そのグループオブピクチャー (GOP) 中の最初のデータが含まれるビデオバックの直前に配置されている。オブジェクトユニット85がビデオバック87を含まない場合であってもNVバック86がオーディオバック91又は/及び副映像バック90を含むオブジェクトユニットの先頭に配置される。このようにオブジェクトユニットがビデオバックを含まない場合であってもオブジェクトユニットがビデオバック87を含む場合と同様にオブジェクトユニットの再生時間は、ビデオが再生される単位を基準に定められる。

【0080】ここで、GOPとは、MPEGの規格で定められ、既に説明したように複数画面を構成するデータ列として定義される。即ち、GOPとは、圧縮されたデータに相当し、この圧縮データを伸張させると動画を再生することができる複数フレームの画像データが再生される。バックヘッダ110及びシステムヘッダ111は、MPEG2のシステムレーヤで定義され、バックヘッダ110には、バック開始コード、システムクロックリファレンス (SCR) 及び多重化レートの情報が格納され、システムヘッダ111には、ビットレート、ストリームIDが記載されている。PCIパケット116及びDSIパケット117のパケットヘッダ112、114には、同様にMPEG2のシステムレーヤに定められているようにパケット開始コード、パケット長及びストリームIDが格納されている。

【0081】他のビデオバック87、オーディオバック91、副映像バック90、コンピュータデータバック88は、図26に示すようにMPEG2のシステムレーヤに定められるように同様にバックヘッダ120、パケットヘッダ121及び対応するデータが格納されたパケット122から構成され、そのバック長は、2048バイトに定められている。これらの各バックは、論理プロッ

クの境界に一致されている。

【0082】PCIパケット116のPCIデータ(PCI)113は、VOBユニット(VOBU)85内のビデオデータの再生状態に同期してプレゼンテーション、即ち、表示の内容を変更する為のナビゲーションデータである。即ち、PCIデータ(PCI)113には、図27に示されるようにPCI全体の情報としてのPCI一般情報(PCI_GI)が記述されている。PCI一般情報(PCI_GI)には、図28に示されるようにPCI113が記録されているVOBU85の論理セクタからの相対的論理ブロック数でそのPCI113が記録されているNVパック(NV_PCK)86のアドレス(NV_PCK_LBN)が記述されている。また、PCI一般情報(PCI_GI)には、VOBU85のカテゴリ(VOBU_CAT)、VOBU85のスタートPTS(VOBU_SPTS)及び終了PTS(VOBU_EPTS)が記述されている。ここで、VOBU85のスタートPTS(VOBU_SPTS)は、当該PCI113が含まれるVOBU85中のビデオデータの再生開始時間(スタートプレゼンテーションタイムスタンプ(SPTS))を示している。この再生開始時間は、VOBU85中の最初の再生開始時間である。通常は、最初のピクチャーは、MPEGの規格におけるIピクチャー(Intra-Picture)の再生開始時間に相当する。VOBU85の終了PTS(VOBU_EPTS)は、当該PCI113が含まれるVOBU85の再生終了時間(終了プレゼンテーションタイムスタンプ:EPTS))を示している。

【0083】図25に示したDSIパケット117のDSIデータ(DSI)115は、VOBユニット(VOBU)85のサーチを実行する為のナビゲーションデータである。DSIデータ(DSI)115には、図29に示すようにDSI一般情報(DSI_GI)、VOBUのサーチ情報(VOBU_SI)及び同期再生情報(SYNCI)が記述されている。

【0084】DSI一般情報(DSI_GI)は、そのDSI115全体の情報が記述されている。即ち、図30に示すようにDSI一般情報(DSI_GI)には、NVパック86のシステム時刻基準参照値(NV_PCK_SCR)が記載されている。このシステム時刻基準参照値(NV_PCK_SCR)は、図1に示す各部に組み込まれているシステムタイムクロック(STC)に格納され、このSTCを基準にビデオ、オーディオ及び副映像パックがビデオ、オーディオ及び副映像デコーダ部58、60、62でデコードされ、映像及び音声モニター部6及びスピーカ部8で再生される。DSI一般情報(DSI_GI)には、DSI115が記録されているVOBセット(VOBS)82の先頭論理セクタからの相対的論理セクタ数(RLSN)でDSI115が記録されているNVパック(NV_PCK)86のスター

トアドレス(NV_PCK_LBN)が記載され、VOBユニット(VOBU)85の先頭論理セクタからの相対的論理セクタ数(RLSN)でDSI115が記録されているVOBユニット(VOBU)85中の最終バックのアドレス(VOBU_EA)が記載されている。

【0085】更に、DSI一般情報(DSI_GI)には、DSI115が記録されているVOBユニット(VOBU)85の先頭論理セクタからの相対的論理セクタ数(RLSN)でこのVOBU内での最初のIピクチャーの最終アドレスが記録されているVパック(V_PCK)88の終了アドレス(VOBU_IP_EA)が記載され、当該DSI115が記録されているVOBU83の識別番号(VOBU_IP_IDN)及び当該DSI115が記録されているセルの識別番号(VOBU_C_IDN)が記載されている。

【0086】VOBU85のサーチ情報(VOBU_SI)には、セル内の先頭アドレスを特定する為の情報が記述される。

【0087】同期情報(SYNCI)には、DSI115が含まれるVOBユニット(VOBU)85のビデオデータの再生開始時間と同期して再生する副映像及びオーディオデータのアドレス情報が記載される。即ち、図31に示すようにDSI115が記録されているNVパック(NV_PCK)86からの相対的論理セクタ数(RLSN)で目的とするオーディオパック(A_PCK)91のスタートアドレス(A_SYNCA)が記載される。オーディオストリームが複数(最大8)ある場合には、その数だけ同期情報(SYNCI)が記載される。また、同期情報(SYNCI)には、目的とするオーディオパック(SP_PCK)91を含むVOBユニット(VOBU)85のNVパック(NV_PCK)86のアドレス(SP_SYNCA)がDSI115が記録されているNVパック(NV_PCK)86からの相対的論理セクタ数(RLSN)で記載されている。副映像ストリームが複数(最大32)ある場合には、その数だけ同期情報(SYNCI)が記載される。

【0088】上記パックのバック長は、2048バイト(1論理セクタ)となるように調整されている。バック長が2048バイトに満たない場合、満たないバイト数が、6バイト以下の場合、パックヘッダ内のスタッフイングバイトの追加によりバック長を調整し、7バイト以上の場合、スタッフイングバイトは1バイトで、パックにその不足バイト数に対応するパディングバケットを追加することによりバック長を調整する。

【0089】パックヘッダは、4バイトのバックスタートコード(000001BAh)、6バイトのSCR(システムクロックリファレンス、システム時刻基準参照値)、3バイトの多重化レート(MUXレート;0468A8h)、1バイト~7バイトのスタッフイングバイト(00h)により構成される。バケットは、基準と

39

して2034バイトで構成され、このパケットには、バック長調整用のパディングパケット（各バイト単位にデータとして意味をなさない有効データ00hが記録される）が必要に応じて設けられるようになっている。

【0090】すなわち、図32に示すように、パケットを構成するデータ長が、2034バイトから2028バイトの場合、その不足するバイト数分、バックヘッダ内にスタッフィングバイトを追加（挿入）する。

【0091】また、図33に示すように、パケットを構成するデータ長が、2027バイト以下の場合、その不足するバイト数分のパディングパケットを追加する。

【0092】たとえば、ビデオデータのバック化について説明する。

【0093】すなわち、図34に示すように、データ長が2015バイトのビデオデータをバック化する場合、1パケットの基準バイト数（2034バイト）とそのビデオデータのバイト数（2015バイト）に6バイトのパケットヘッダを加えたバイト数（2021バイト）とを比較し、この比較による13バイトの不足の算出により、13バイトのパディングパケットの追加と判断し、スタッフィングバイトが1バイトの通常の14バイトのパックヘッダと、2021バイトのビデオパケットに13バイトのパディングパケットを追加した2034バイトのパケットとにより、2048バイトのバックを形成する。

【0094】また、図35に示すように、データ長が2025バイトのビデオデータをバック化する場合、1パケットの基準バイト数（2034バイト）とそのビデオデータのバイト数（2025バイト）に6バイトのパケットヘッダを加えたバイト数（2031バイト）とを比較し、この比較による3バイトの不足の算出により、3バイトのスタッフィングバイトの追加と判断し、1バイトのスタッフィングバイトの他に3バイトのスタッフィングバイトを追加した17バイトのバックヘッダと、2031バイトのビデオパケットとにより、2048バイトのバックを形成する。

【0095】次に、上記各バックについて詳細に説明する。

【0096】NVバック86は、図25に示すように、1つのGOPの先頭のデータを含むビデオバックの直前に配置されるものであり、14バイトのバックヘッダ110と、24バイトのシステムヘッダ111と、986バイト以内のPCIパケット116と、1024バイト以内のDSIパケット117により構成されている。PCIパケット116は、6バイトのパケットヘッダ112と、1バイトのサブストリームID118と979バイトのPCIデータが格納可能なデータ領域113により構成され、DSIパケット117は、6バイトのパケットヘッダ114と、1バイトのサブストリームID119と1017バイトのDSIデータが格納可能なデー

40

タ領域115により構成されている。

【0097】バックヘッダ110は、上述したように、4バイトのバックスタートコード（000001BAh）、6バイトのSCR（システムクロックリファレンス、システム時刻基準参照値）、3バイトの多重化レート（MUXレート；0468A8h）、1バイト～7バイトのスタッフィングバイト（00h）により構成される。

【0098】システムヘッダ111は、4バイトのシステムヘッダスタートコード（000001BBh）、2バイトのヘッダ長等により構成される。

【0099】パケットヘッダ112、114は、それぞれ3バイトのパケットスタートコード（000001h）、1バイトのストリームID（10111111b：プライベートストリーム2）、2バイトのPES（Packetized Elementary Stream）パケット長により構成される。

【0100】サブストリームID118には、PCIストリームを示すコード（00000000b）が付与されている。

【0101】サブストリームID119には、DSIストリームを示すコード（00000001b）が付与されている。

【0102】ビデオバック87は、図36の（a）

（b）に示すように、14バイトのバックヘッダ120と、9バイトのパケットヘッダ121と2025バイトまでのビデオデータが格納可能なデータ領域122によりなるビデオパケット、あるいは19バイトのパケットヘッダ121と2015バイトまでのビデオデータが格納可能なデータ領域122によりなるビデオパケットで、1つのバックが構成されている。バックヘッダ120は、上記NVバック86の場合と同じ構成である。

【0103】パケットヘッダ121が9バイトの場合は、3バイトのパケットスタートコード（000001h）、1バイトのストリームID（11100000b：MPEGビデオストリーム）、2バイトのPES（Packetized Elementary Stream）パケット長、3バイトのPESに関するデータにより構成される。

【0104】パケットヘッダ121が19バイトの場合は、上記9バイトの他に、5バイトのPTS（Presentation Time Stamp；再生出力の時刻管理情報）と5バイトのDTS（Decoding Time Stamp；復号の時刻管理情報）がさらに追加構成されている。このPTSとDTSは、ビデオストリームのIピクチャ先頭のデータを含むビデオパケットのみに記述される。

【0105】オーディオバック91は、ドルビーAC3準拠の圧縮符号化データの場合、図37の（a）に示すように、14バイトのバックヘッダ120と、14バイトのパケットヘッダ121と1バイトのサブストリームID131とパケットデータ内のオーディオフレームの

41

数を示す1バイト構成のフレーム数132とパケットデータ内の最初のオーディオフレームの先頭の位置を示す2バイト構成のファーストアクセスユニットポインタ133と2016バイトまでのオーディオデータが格納可能なデータ領域134によりなるオーディオパケットで、1つのバックが構成されている。バックヘッダ120は、上記NVバック86の場合と同じ構成である。パケットヘッダ121にPTSが含まれない場合、パケットヘッダ121が9バイト構成となり、オーディオデータが格納可能なデータ領域134が2021バイトに拡張する。

【0106】オーディオバック91は、リニアPCMの符号化データの場合、図37の(b)に示すように、14バイトのバックヘッダ120と、14バイトのパケットヘッダ121と1バイトのサブストリームID131とパケットデータ内のオーディオフレームの数を示す1バイト構成のフレーム数132とパケットデータ内のオーディオフレームの先頭の位置を示す2バイト構成のファーストアクセスユニットポインタ133とパケットデータ内のオーディオデータの情報が記述されている3バイト構成のオーディオデータインフォメーション135と2013バイトまでのオーディオデータが格納可能なデータ領域134によりなるオーディオパケットで、1つのバックが構成されている。バックヘッダ120は、上記NVバック86の場合と同じ構成である。パケットヘッダ121にPTSが含まれない場合、パケットヘッダ121が9バイト構成となり、オーディオデータが格納可能なデータ領域134が2018バイトに拡張する。

【0107】オーディオデータインフォメーションのオーディオデータの情報としては、フレーム番号、1つのデータの長さが16ビット長か20ビット長か24ビット長かの処理単位、サンプリング周波数等が記述されている。

【0108】パケットヘッダ121は、3バイトのパケットスタートコード(000001h)、1バイトのストリームID(10111101b:プライベートストリーム1)、2バイトのPES(Packetized Elementary Stream)パケット長、3バイトのPESの内容、5バイトのPTS(Presentation Time Stamp;再生出力の時刻管理情報)により構成される。

【0109】オーディオデータがドルビーAC3準拠の圧縮符号化データの場合に付与されるサブストリームID131には、AC3ストリームを示すコード(10000×××b:×××がストリーム番号)が付与されている。

【0110】オーディオデータがリニアPCMの場合に付与されるサブストリームID131には、リニアPCMストリームを示すコード(10100×××b:×××がストリーム番号)が付与されている。

42

【0111】オーディオデータの1フレームは、たとえば4バイトのフレームヘッダと0~191までの左右の4バイトずつの772バイトのオーディオデータにより構成されている。

【0112】副映像バック90は、図38に示すように、14バイトのバックヘッダ120と、14バイトのパケットヘッダ121と1バイトのサブストリームID141と2019バイトまでの副映像データが格納可能なデータ領域142によりなる副映像パケットで、1つのバックが構成されている。パケットヘッダ121にPTSが含まれない場合、パケットヘッダ121が9バイト構成となり、副映像データが格納可能なデータ領域142が2024バイトに拡張する。バックヘッダ120は、上記NVバック86の場合と同じ構成である。

【0113】サブストリームID141には、副映像ストリームを示すコード(001×××××b:×××××ストリーム番号)が付与されている。

【0114】パケットヘッダ121には、3バイトのパケットスタートコード(000001h)、1バイトのストリームID(10111101b:プライベートストリーム1)、2バイトのPES(Packetized Elementary Stream)パケット長、3バイトのPESに関するデータ、5バイトのPTS(Presentation Time Stamp;再生出力の時刻管理情報)により構成されている。このPTSは、各副映像ユニットの先頭データを含む副映像パケットのみに記述される。

【0115】コンピュータデータバック88は、図39に示すように、14バイトのバックヘッダ120と、14バイトのパケットヘッダ121と1バイトのサブストリームID151と2バイトのコンピュータ環境情報152と2017バイトまでのコンピュータデータが格納可能なデータ領域153よりなるパケットで、1つのバックが構成されている。パケットヘッダ121にPTSが含まれない場合、パケットヘッダ121が9バイト構成となり、コンピュータデータが格納可能なデータ領域153が2022バイトに拡張する。バックヘッダ120は、上記NVバック86の場合と同じ構成である。

【0116】コンピュータ環境情報152としては、使用CPUと使用OSが記述される。たとえば、図40に示すように、4種類の種別が選択できるようになっており、使用CPUが「CPU1」で使用OSが「OS1」の場合、「0110(h)」が記述され、使用CPUが「CPU1」で使用OSが「OS2」の場合、「0111(h)」が記述され、使用CPUが「CPU2」で使用OSが「OS3」の場合、「1002(h)」が記述され、使用CPUが「CPU1」で使用OSが「OS3」の場合、「0102(h)」が記述される。

【0117】サブストリームIDには、コンピュータストリームを示すコード(11000000b)が付与されている。

43

【0118】パケットヘッダ121には、3バイトのバケットスタートコード(000001h)、1バイトのストリームID(10111101b:プライベートストリーム1)、2バイトのPES(Packetized Elementary Stream)パケット長、3バイトのPESに関するデータ、5バイトのPTS(Presentation Time Stamp; 再生出力の時刻管理情報)により構成されている。このPTSは、各コンピュータデータストリームの先頭データを含むコンピュータデータパケットのみに記述される。

【0119】上記各バックに記述されるSCRは、各ビデオタイトルセットごとの先頭バックの値を0とし、光ディスク10への記録順に昇順に増加するようになっている。上記各バックのパケットヘッダ121内に記述されるストリームIDは、図41に示すように、「10111100」の場合、プログラムストリームマップを示し、「10111101」の場合、プライベートストリーム1を示し、「10111110」の場合、バディングストリーム(ダミーデータ)を示し、「10111111」の場合、プライベートストリーム2を示し、「110×××××」の場合、MPEGオーディオストリーム(×××××; ストリーム番号)を示し、「1110××××」の場合、MPEGビデオストリーム(××××; ストリーム番号)を示し、「11110000」の場合、エンタイトルメント(許諾)制御メッセージを示し、「111110010」の場合、エンタイトルメント(許諾)管理メッセージを示し、「11110010」の場合、DSMコントロールコマンドを示し、「11111111」の場合、プログラムストリームディレクトリを示している。

【0120】上記オーディオバック91、副映像バック90、コンピュータデータバック88のパケット内に記述されるサブストリームID131、141、151は、プライベートストリーム1に対応し、図42に示すように、「10100×××」の場合、リニアPCMオーディオストリームを示し、その「×××」がストリーム番号となり、「001×××××」の場合、副映像ストリームを示し、その「×××××」がストリーム番号となり、「11000000」の場合、コンピュータデータストリームを示し、「10000×××」の場合、ドルビーAC3オーディオストリームを示し、その「×××」がストリーム番号となっている。

【0121】上記NVバック87内のPCIパケットとDSIパケットに記述されるサブストリームID118、119は、プライベートストリーム2に対応し、図43に示すように、「00000000」の場合、PCIストリームを示し、「00000001」の場合、DSIストリームを示している。

【0122】次に、リニアオーディオデータのバック91の構成の具体例を、図44を用いて説明する。

44

【0123】すなわち、パケットヘッダ121内のストリームIDとしてはプライベートストリーム1を示す「10111101」が記述され、サブストリームID131としてリニアPCMオーディオストリームを示す「10100011」が記述され、ストリーム番号は「3」が記述され、ファーストアクセスユニットポインタ133として「01DB(h)」が記述されている。パケット内のデータ領域134には、前のフレームの残りデータ(472バイト)と2つのフレームデータ(1フレーム772バイト構成)が格納されている。

【0124】次に、コンピュータデータのバック88の構成の具体例を、図45を用いて説明する。

【0125】すなわち、パケットヘッダ121内のストリームIDとしてはプライベートストリーム1を示す「10111101」が記述され、サブストリームID151としてコンピュータデータストリームを示す「11000000」が記述され、コンピュータ環境情報152として使用CPUが「CPU1」で使用OSが「OS2」を示す「0111(h)」が記述されている。パケット内のデータ領域153には、コンピュータデータが格納されている。

【0126】次に、副映像データのバック90の構成の具体例を、図46を用いて説明する。

【0127】すなわち、パケットヘッダ121内のストリームIDとしてはプライベートストリーム1を示す「10111101」が記述され、サブストリームID141として副映像ストリームを示す「00100101」が記述され、ストリーム番号は「5」が記述されている。パケット内のデータ領域142には、2019バイトまでの副映像データが格納されている。

【0128】上記システムプロセッサ部54には、パケットの種別を判断してそのパケット内のデータを各デコーダへ転送するパケット転送処理部200を有している。このパケット転送処理部200は、図47に示すように、メモリインターフェース部(メモリI/F部)201、スタッフィング長検知部202、バックヘッダ終了アドレス算出部203、バック種別判別部204、パケットデータ転送制御部205、およびデコーダインターフェース部(デコーダI/F部)206により構成されている。

【0129】メモリI/F部201は、データRAM部56からのバックデータをデータバスによりスタッフィング長検知部202、バック種別判別部204、パケットデータ転送制御部205、およびデコーダI/F部206へ出力するものである。

【0130】スタッフィング長検知部202は、メモリI/F部201から供給されるバックデータ中のバックヘッダ120内のスタッフィング長が何バイトであるかを検知するものであり、この検知結果はバックヘッダ終了アドレス算出部203に出力される。

45

【0131】バックヘッダ終了アドレス算出部203は、スタッフィング長検知部202から供給されるスタッフィング長により、バックヘッダ終了アドレスを算出するものであり、この算出結果はバック種別判別部204およびパケットデータ転送制御部205に出力される。

【0132】バック種別判別部204は、バックヘッダ終了アドレス算出部203から供給されるバックヘッダ終了アドレスに従って、上記メモリI/F部201aから供給されるバックデータ中のそのアドレスの次に供給される4バイトのデータの内容により、ビデオバック87、オーディオバック91、副映像バック90、NVバック86、コンピュータデータバック88のいずれであるかを判別するものであり、この判別結果はパケットデータ転送制御部205に出力される。

【0133】すなわち、プライベートストリーム2を示す1バイトのストリームIDが供給された場合、NVバック86と判別し、ビデオストリームを示す1バイトのストリームIDによりビデオバック87と判別し、プライベートストリーム1を示す1バイトのストリームIDによりオーディオバック91、副映像バック90あるいはコンピュータデータバック88と判別するようになっている。

【0134】このオーディオバック91、副映像バック90あるいはコンピュータデータバック88が判別された際、パケットヘッダ121に続くサブストリームID131、141、151によりドルビーAC3オーディオストリーム、リニアオーディオストリーム、副映像ストリーム、コンピュータデータストリームかを判別するようになっている。

【0135】たとえば、図42に示すように、「10100×××」(×××;ストリーム番号)の場合、リニアオーディオストリームと判別され、「10000×××」(×××;ストリーム番号)の場合、ドルビーAC3オーディオストリームと判別され、「001×××××」(×××××;ストリーム番号)の場合、副映像ストリームと判別され、「11000000」の場合、コンピュータデータストリームと判別される。

【0136】パケットデータ転送制御部205は、バックヘッダ終了アドレス算出部203から供給されるバックヘッダ終了アドレスとバック種別判別部204から供給されるバック種別の判別結果に応じて、転送先とパケットスタートアドレスを判断し、さらに供給されるバックデータのパケットヘッダ121内のパケット長を判断するものである。さらに、パケットデータ転送制御部205は、転送コントロール信号としての転送先を示す信号をデコーダI/F部206に供給し、パケットスタートアドレスからパケット終了アドレスがメモリI/F部201に供給されるようになっている。

【0137】デコーダI/F部206は、パケットデー

46

タ転送制御部205から供給される転送コントロール信号に応じて、メモリI/F部201からパケットデータ転送制御部205に制御されて供給されるパケットヘッダ121を含むパケットデータとしての、ビデオデータ、オーディオデータ、副映像データを、対応するデコーダ部58、60、62に出力したり、パケットデータとしてのナビゲーションデータ及びコンピュータデータをデータRAM部56に出力するものである。

【0138】次に、再び図1を参照して図4から図24に示す論理フォーマットを有する光ディスク10からのムービデータの再生動作について説明する。尚、図1においてブロック間の実線の矢印は、データバスを示し、破線の矢印は、制御バスを示している。

【0139】図1に示される光ディスク装置においては、電源が投入されると、システム用ROM及びRAM52からシステムCPU部50は、初期動作プログラムを読み出し、ディスクドライブ部30を作動させる。従って、ディスクドライブ部30は、リードイン領域27から読み出し動作を開始し、リードイン領域27に続くISO-9660等に準拠してボリュームとファイル構造を規定したボリューム及びファイル構造領域70が読み出される。即ち、システムCPU部50は、ディスクドライブ部30にセットされた光ディスク10の所定位置に記録されているボリューム及びファイル構造領域70を読み出す為に、ディスクドライブ部30にリード命令を与え、ボリューム及びファイル構造領域70の内容を読み出し、システムプロセッサ部54を介して、データRAM部56に一旦格納する。システムCPU部50は、データRAM部56に格納されたバステーブル及びディレクトリレコードを介して各ファイルの記録位置や記録容量、サイズ等の情報やその他管理に必要な情報としての管理情報を抜き出し、システム用ROM&RAM部52の所定の場所に転送し、保存する。

【0140】次に、システムCPU部50は、システム用ROM&RAM部52から、各ファイルの記録位置や記録容量の情報を参照してファイル番号0番から始まる複数ファイルからなるビデオマネージャー71を取得する。即ち、システムCPU部50は、システム用ROM及びRAM部52から取得した各ファイルの記録位置や記録容量の情報を参照してディスクドライブ部30に対してリード命令を与え、ルートディレクトリ上に存在するビデオマネージャー71を構成する複数ファイルの位置及びサイズを取得し、このビデオマネージャー71を読み出し、システムプロセッサ部54を介して、データRAM部56に格納する。このビデオマネージャー71の第1のテーブルでありビデオマネージャー情報管理テーブル(VMGI_MAT)78がサーチされる。このサーチによってビデオマネージャーメニュー(VMGM)の為のビデオオブジェクトセット(VMGM_VOBS)76の開始アドレス(VMGM_VOBS_S

A) が獲得され、ビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76 が再生される。このメニュー用のビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76 の再生に関しては、ビデオタイトルセット (VTS) 中のタイトルの為のビデオオブジェクトセット (VTSM_VOBS) と同様であるのでその再生手順は省略する。このビデオオブジェクトセット (VMGM_VOBS) 76 で言語の設定をすると、或いは、ビデオマネージャメニュー (VMGM) がない場合には、ボリュームマネージャ情報管理テーブル (VMGI_MAT) がサーチされてタイトルセットサーチポイントテーブル (TT_SRPT) 79 の開始アドレス (TT_SRPT_SA) がサーチされる。

【0141】このサーチによってタイトルセットサーチポイントテーブル (TT_SRPT) 79 がシステム用 ROM&RAM 部 52 の所定の場所に転送され、保存される。次に、システム CPU 部 50 は、タイトルセットサーチポイントテーブル情報 (TSPTI) 92 からタイトルセットサーチポイントテーブル (TT_SRPT) 79 の最終アドレスを獲得するとともにキー操作/表示部 4 からの入力番号に応じたタイトルセットサーチポイント (TT_SRPT) 93 から入力番号に対応したビデオタイトルセット番号 (VTSN)、プログラムチェーン番号 (PGCN) 及びビデオタイトルセットのスタートアドレス (VTS_SA) が獲得される。タイトルセットが 1 つしかない場合には、キー操作/表示部 4 からの入力番号の有無に拘らず 1 つのタイトルセットサーチポイント (TT_SRPT) 93 がサーチされてそのタイトルセットのスタートアドレス (VTS_SA) が獲得される。このタイトルセットのスタートアドレス (VTS_SA) からシステム CPU 部 50 は、目的のタイトルセットを獲得することとなる。

【0142】尚、システム CPU 部 50 は、ビデオマネージャ情報 (VMGI) 75 の情報管理テーブル (VMGI_MAT) 78 に記述されたビデオマネージャメニュー用のビデオ、オーディオ、副映像のストリーム数及びそれぞれの属性情報を取得して属性情報を基に、各々のビデオデコーダ部 58、オーディオデコーダ部 60 及び副映像デコーダ部 62 にビデオマネージャメニュー再生のためのパラメータを設定する。

【0143】次に、図 11 に示すビデオタイトルセット 72 のスタートアドレス (VTS_SA) から図 12 に示すようにそのタイトルセットのビデオタイトルセット情報 (VTSI) 94 が獲得される。このビデオタイトルセット情報 (VTSI) 94 のビデオタイトルセット情報の管理テーブル (VTSI_MAT) 98 から図 13 に示すビデオタイトルセット情報管理テーブル (VTSI_MAT) の 98 終了アドレス (VTI_MAT_EA) が獲得されると共にオーディオ及び副映像データのストリーム数 (VTS_AST_Ns、VTS_SP

ST_Ns) 及びビデオ、オーディオ及び副映像データの属性情報 (VTS_V_ATTR, VTS_A_ATTR, VTS_SPST_ATTR) に基づいて図 1 に示される再生装置の各部がその属性に従って設定される。

【0144】また、ビデオタイトルセット (VTS) の為のメニュー (VTSM) が単純な構成である場合には、図 13 に示すビデオタイトルセット情報管理テーブル (VTSI_MAT) 98 からビデオタイトルセットのメニュー用のビデオオブジェクトセット (VTSM_VOB) 95 のスタートアドレス (VTSM_VOB_SA) が獲得されてそのビデオオブジェクトセット (VTSM_VOB) 95 によってビデオタイトルセットのメニューが表示される。このメニューを参照して特にプログラムチェーン (PGC) を選択せずに単純にタイトルセット (VTS) におけるタイトル (VTST) の為のビデオオブジェクトセット (VTST_VOBS) 96 を再生する場合には、図 13 に示すそのスタートアドレス (VTST_VOBS_SA) からそのビデオオブジェクトセット 96 が再生される。

【0145】プログラムチェーン (PGC) をキー操作/表示部 4 で指定する場合には、次のような手順で対象とするプログラムチェーンがサーチされる。このプログラムチェーンのサーチは、ビデオタイトルセットにおけるタイトルの為のプログラムチェーンに限らず、メニューがプログラムチェーンで構成される比較的複雑なメニューにおいてもそのメニューの為のプログラムチェーンのサーチに関しても同様の手順が採用される。ビデオタイトルセット情報 (VTSI) 94 の管理テーブル (VTSI_MAT) 98 に記述される図 13 に示すビデオタイトルセット (VTS) 内のプログラムチェーン情報テーブル (VTS_PGCIT) 100 のスタートアドレスが獲得されて図 14 に示すその VTS プログラムチェーン情報テーブルの情報 (VTS_PGCIT_I) 102 が読み込まれる。この情報 (VTS_PGCIT_I) 102 から図 15 に示すプログラムチェーンの数 (VTS_PGC_Ns) 及びテーブル 100 の終了アドレス (VTS_PGCIT_EA) が獲得される。

【0146】キー操作/表示部 4 でプログラムチェーンの番号が指定されると、その番号に対応した図 14 に示す VTS_PGCIT サーチポイント (VTS_PGCIT_SRP) 103 から図 16 に示すそのプログラムチェーンのカテゴリ及びそのサーチポイント (VTS_PGCIT_SRP) 103 に対応した VTS_PGC 情報 104 のスタートアドレスが獲得される。このスタートアドレス (VTS_PGC_SA) によって図 17 に示すプログラムチェーン一般情報 (PGC_GI) が読み出される。この一般情報 (PGC_GI) によってプログラムチェーン (PGC) のカテゴリ及び再生時間 (PGC_CAT、PGC_PBTIME) 等が獲得され、その一般情報 (PGC_GI) に記載し

49

たセル再生情報テーブル (C_PBIT) 及びセル位置情報テーブル (C_POSIT) 108 のスタートアドレス (C_PBIT_SA、C_POSIT_SA) が獲得される。スタートアドレス (C_PBIT_SA) から図 23 に示すセル位置情報 (C_POSI) として図 24 に示すようなビデオオブジェクトの識別子 (C_VOB_IDN) 及びセルの識別番号 (C_IDN) が獲得される。

【0147】また、スタートアドレス (C_POSIT_SA) から図 21 に示すセル再生情報 (C_PBI) が獲得され、その再生情報 (C_PBI) に記載の図 22 に示すセル中の最初の VOB 85 のスタートアドレス (C_FVOBU_SA) 及び最終の VOB のスタートアドレス (C_LVOBU_SA) が獲得されてその目的とするセルがサーチされる。セルの再生順序は、図 17 に示される PGC プログラムマップ (PGC_PGMAP) 106 の図 19 に示すプログラムのマップを参照して次々に再生セル 84 が決定される。このように決定されたプログラムチェーンのデータセル 84 が次々にビデオオブジェクト 144 から読み出されてシステムプロセッサ部 54 を介して、データ RAM 部 56 に入力される。このデータセル 84 は、再生時間情報を基にビデオデコード部 58、オーディオデコード部 60 及び副映像デコード部 62 に与えられてデコードされ、D/A 及び再生処理部 64 で信号変換されてモニタ部 6 に画像が再現されるとともにスピーカ部 8 から音声再生される。

【0148】更に、ナビゲーションパック 86 を利用したビデオデータの通常再生に関してフローチャートを参照してより詳細説明する。

【0149】ビデオデータの通常再生では、図 48 に示すように通常再生が開始される場合には、ステップ S11 に示すスタートの後に既に説明したようにビデオマネージャ情報 (VMGI) 75 がシステム CPU 部 50 によってサーチされてシステム ROM/RAM 部 52 に格納される (ステップ S12)。同様にこのビデオマネージャ情報 (VMGI) 75 に基づいてビデオタイトルセット (VTS) 72 のビデオタイトルセット情報 (VTSI) 94 が読み込まれるとともにビデオタイトルセットメニューがそのビデオオブジェクトセット (VTS_M_VOBS) 95 を利用してモニタ部 6 に表示される。この表示を基にステップ S13 で示すように再生すべきタイトルセット 72 及び再生条件の等をユーザーが決定する。この決定したタイトルセット 72 をキー操作/表示部 4 を用いて選択すると、ステップ S14 に示すように選択したタイトルセット 72 中の図 12 に示すプログラムチェーン情報テーブル (VTS_PGCIT) 100 から図 17、図 21 及び図 22 に示すセル再生情報テーブル (C_PBIT) 107 のデータがシステム CPU 部 50 によって読み込まれ、これがシステム

50

ROM/RAM 部 52 に格納される。

【0150】システム CPU 部 50 は、ステップ S15 に示すようにキー操作/表示部 4 から入力された再生条件に応じて再生を開始するプログラムチェーン番号 (VTS_PGC_Ns)、アングル番号 (ANGNs)、オーディオストリーム番号及び副映像ストリーム番号が決定される。例えば、プログラムチェーンとしてボクシングのワールドチャンピオン第 11 戦がタイトルとして選定され、英語のナレーションの基に副映像として日本語の字幕を映し出すことを決定する。また、アングルとして常に両者の戦いが良く鑑賞できる映像に決定する等の選択がユーザによって実行される。この決定された副映像番号及びオーディオストリーム番号がステップ S16 に示すようにシステムプロセッサ部 54 のレジスタ 54B に設定される。同様に、再生スタート時間がシステムプロセッサ部 54、ビデオデコード部 58、オーディオデコード部 60 及び副映像デコード部 62 のシステムタイムクロック (STC) 54A、58A、60A、62A に設定される。また、スタートアドレスとしてのセル中の最初の VOB のスタートアドレス及び PGC 番号、即ち、セル番号がシステム用 ROM/RAM 部 52 に格納される。

【0151】ステップ S17 に示すようにビデオタイトルセットの読み込み準備が整った時点でリードコマンドがシステム CPU 部 50 からディスクドライブ部 30 に与えられ、上述したスタートアドレスを基に光ディスク 10 がディスクドライブ部 30 によってシークされる。このリードコマンドによって光ディスク 10 からは、指定されたプログラムチェーン (PGC) に係るセルが次々に読み出され、システム CPU 部 50 及びシステム処理部 54 を介してデータ RAM 部 56 に送られる。この送られたセルデータは、図 6 に示すようにビデオオブジェクトユニット (VOBU) 85 の先頭パックであるナビゲーションパック 86 からパックがデータ RAM 部 56 に格納される。その後、ビデオオブジェクトユニット (VOBU) のビデオパック 87、オーディオパック 91、副映像パック 90、及びコンピュータデータパック 88 が夫々ビデオデコード部 58、オーディオデコード部 60、副映像デコード部 62 及びデータ RAM 部 56 に分配され、夫々のデコードでデコードされて D/A 及びデータ再生部 64 に送られる。その結果、モニタ部 6 に映像信号が送られ、スピーカ部 8 に音声信号が送られ、副映像を伴った映像の表示が開始されるとともに音声の再現が開始される。

【0152】上記コンピュータデータパック 88 の内容は、データ RAM 部 56 内のシステム CPU 部 50 による作業エリアに格納される。

【0153】これにより、システム CPU 部 50 はこのコンピュータデータとしてのプログラムデータを用いて別の処理を実行したり、システム ROM/RAM 部 52

51

内の別のプログラムを起動するようになっている。

【0154】たとえば、ビデオの途中において、双六ゲームが行われる際に、その簡単な双六ゲームのプログラムが、システムROM/RAM部52に記録されておらず、上述したようにコンピュータデータとして読み出されるようになっている。

【0155】また、上述したようにコンピュータデータとして読み出されることにより、システムROM/RAM部52に記録されている所定のプログラムを起動するようになっている。

【0156】このような映像及び音声の再生中においては、キー操作/表示部4からの割り込み処理があった場合には、その得られたキーデータがシステムRAM/ROM部52に格納される。キーデータがない場合には、ドライブ部からの再生終了の割り込みがあったか否かがチェックされる。再生終了の割り込みがない場合には、ナビゲーションパック86の転送を待つこととなる。ナビゲーションパック86の転送が終了している場合には、ナビゲーションパック86中の論理セクタ番号(NV_PCK_LSN)を現在の論理ブロック番号(NO_WLBN)としてシステムRAM/ROM部52に格納される。

【0157】NVパック86の転送が終了すると、そのセル内の最終NVパック86かがチェックされる。即ち、セル84中の最終ナビゲーションパック86であるか否かがチェックされる。このチェックは、図22に示すセル再生情報テーブル(C_PBI)107のC_LVOBUのスタートアドレス(C_LVOBU_SA)とナビゲーションパック86のアドレス(V_PCK_LBN)を比較することによってチェックされる。NVパック86がセル84内での最終である場合には、アングルの変更があるか否かがチェックされる。アングルの変更は、キー操作/表示部4からシステムCPU部50にアングル変更の入力があるか否かに基づいて判断される。アングルの変更がない場合には、そのセル84が属するプログラムチェーン(PGC)の最終セルであるかがチェックされる。このチェックは、図17及び図21に示すそのセル84がセル再生情報テーブル(C_PBIT)107の最終セルであるかによって判断される。即ち、プログラムチェーンを構成するセル数及び再生されたセルの識別番号によってチェックされる。

【0158】再生終了である場合、或いは、次に再生されるプログラムチェーンがない場合には、ステップS18に示すようにPCI113の一般情報(PCI-GI)に記載されるエンドPTS(VOBU_EPTS)が参照され、このエンドPTS(VOBU_EPTS)がシステムタイムクロック(STC)に一致すると、ステップ19に示されるようにモニタ6の画面の表示が中止され、ステップS20に示すようにシステムCPUからディスクドライブ部30にデータ転送中止コマンドが

52

与えられ、データ転送が中止され、再生動作が終了される。

【0159】次に、上記各パックの転送処理について、図49に示すフローチャートを参照して説明する。

【0160】すなわち、システムCPU部50は、ディスクドライブ部30にリードコマンドと再生するパックの論理セクタアドレスを転送する(ステップS31)。

【0161】すると、ディスクドライブ部30は、目的アドレスをシークする(ステップS32)。

【0162】ついで、ディスクドライブ部30は、目的アドレスのデータをエラー訂正し、論理セクタデータ内の主データ部分を、システムプロセッサ部54に転送する(ステップS33)。

【0163】システムプロセッサ部54は、読出した論理セクタのデータをデータRAM部56に保存する(ステップS34)。

【0164】システムプロセッサ部54は、データRAM部56内に保存されている論理セクタのデータの先頭よりパックヘッダ110、120を読み出し、そのSCR(システム時刻基準参照値)を保存する(ステップS35)。

【0165】このとき、論理セクタの先頭とバックデータの先頭が一致しているため、データの取り出しが容易に行える。

【0166】そして、システムプロセッサ部54は、自身のPTSと上記保存した各パックのSCRとを比較し、PTSに達したSCRに対応するパックつまり再生出力するパックを判断し、この判断したバックデータをデータRAM部56から読み出し、パケット転送処理部200でデータの種別を判別し、この判別した種類に応じてデコード部58、60、62あるいはデータRAM部56に転送する(ステップS36)。

【0167】そして、各デコード部58、60、62はそれぞれのデータフォーマットと上記設定されている符号化方式に従ってデータをデコードし、D/A&再生処理部64に送る。D/A&再生処理部64でビデオデータのデコード結果のデジタル信号をアナログ信号に変換した後、上記設定されている条件によりフレームレート処理、アスペクト処理、バンスキャン処理等を施して、モニタ部6に出力される。D/A&再生処理部64でオーディオデータのデコード結果を上記設定されている条件によりデジタル信号をアナログ信号に変換した後、D/A&再生処理部64で上記設定されている条件によりミキシング処理を施してスピーカ部8に出力される。D/A&再生処理部64は、副映像データのデコード結果のデジタル信号をアナログ信号に変換した後、モニタ部6に出力される(ステップS37)。

【0168】また、データRAM部56は、コンピュータデータとしてのプログラムデータが供給された際、そのデータをそのCPU種別と使用OSを示すコンピュー

53

タ環境種別とともに記録し、システムCPU部50へコンピュータ環境種別とそのデータを出力する。

【0169】再生が終了するまで、上記S33～S37が繰り返される。

【0170】次に、パケット転送処理部200の処理を説明する。

【0171】すなわち、データRAM部56から読出されたバックデータがメモリI/F部201を介してスタッフィング長検知部202、バック種別判別部204、パケットデータ転送制御部205、およびデコーダI/F部206に供給される(ステップS41)。

【0172】これにより、スタッフィング長検知部202によって、スタッフィング長が検知され、そのスタッフィング長を示すデータがバックヘッダ終了アドレス算出部203に出力される(ステップS42)。

【0173】バックヘッダ終了アドレス算出部203は供給されるスタッフィング長により、バックヘッダ終了アドレスを算出し、このバックヘッダ終了アドレスがバック種別判別部204、パケットデータ転送制御部205に供給される(ステップS43)。

【0174】バック種別判別部204は、供給されるバックヘッダ終了アドレスに従って、そのアドレスの次に供給される4～6バイトのデータの内容により、NVバック86、ビデオバック87、ドルビーAC3のオーディオバック91、リニアPCMのオーディオバック91、副映像バック90、コンピュータデータバック88のいずれであるかを判別し、この判別結果がパケットデータ転送制御部205に供給される(ステップS44)。

【0175】すなわち、4バイトのシステムヘッダスタートコードが供給された場合、NVバック86と判別し、3バイトのパケットスタートコードと1バイトのビデオストリームを示すストリームIDによりビデオバック87と判別し、3バイトのパケットスタートコードと1バイトのストリームIDとしてのプライベートストリーム1によりドルビーAC3のオーディオバック91、リニアPCMのオーディオバック91、副映像バック90、コンピュータデータバック88のいずれかであると判別する。

【0176】また、ストリームIDがプライベートストリーム1の際に、パケットヘッダ121に続くサブストリームID(131、141、151)が「10100×××」の場合、リニアPCMのオーディオバックと判別し、その「×××」によりストリーム番号を判別する。

【0177】また、ストリームIDがプライベートストリーム1の際に、パケットヘッダ121に続くサブストリームID(131、141、151)が「10000×××」の場合、ドルビーAC3のオーディオバックと判別し、その「×××」によりストリーム番号を判別す

54

る。

【0178】また、ストリームIDがプライベートストリーム1の際に、パケットヘッダ121に続くサブストリームID(131、141、151)が「001×××××」の場合、副映像ストリームと判別し、その「×××××」によりストリーム番号を判別する。

【0179】また、ストリームIDがプライベートストリーム1の際に、パケットヘッダ121に続くサブストリームID(131、141、151)が「11000000」の場合、コンピュータデータストリームと判別する。

【0180】上記リニアPCMのオーディオバック91あるいはドルビーAC3のオーディオバック91を判別した際、そのサブストリームID131の後のフレームヘッダ数132に続く2バイトのファーストアクセスユニットポインタ133により最初のフレームの先頭位置を示すオフセットバイト番号が判別される。

【0181】そして、パケットデータ転送制御部205は、供給されるバック種別の判別結果とバックヘッダ終了アドレスとファーストアクセスユニットポインタ133に応じて、転送先とパケットスタートアドレスを判断し、さらに供給されるバックデータのバックヘッダ121内のパケット長を判断する。これにより、パケットデータ転送制御部205は、転送コントロール信号としての転送先を示す信号をデコーダI/F部206に供給し、パケットスタートアドレスからパケット終了アドレスがメモリI/F部201に供給される(ステップS45)。

【0182】したがって、実質的に有効なパケットデータが、メモリI/F部201からデータバスを介して、デコーダI/F部206に供給され、その後、その種別に応じた転送先としての各デコーダ58、60、62あるいはデータRAM部56に転送される(ステップS46)。

【0183】すなわち、ビデオデータのバックデータはデコーダ58へ転送され、オーディオデータのバックデータはデコーダ60へ転送され、副映像データのバックデータはデコーダ62へ転送され、コンピュータデータのバックデータはデータRAM部56へ転送される。

【0184】この際、上記バックデータが一定長のため、データRAM部56での記憶状態がつまり開始アドレスが一定間隔なため、データRAM部56内のバックデータの先頭が常に同じ間隔のアドレスに保存される事となり、バックデータの管理がアドレス管理せずに、バック番号だけの管理で良い。

【0185】尚、データの種別の判別過程では、データがビデオデータの再生位置等を示すNVデータとしてのPCIデータおよびDSIデータの場合には、このNVデータはデコーダへは転送されず、このNVデータは、

10

20

30

40

50

55

データRAM部56に格納される。このNVデータは、システムCPU部50によって必要に応じて参照されてビデオデータの特種再生をする際に利用される。この際、PCIデータとDSIデータとはそれらに付与されているサブストリームIDにより識別されるようになっている。

【0186】また、1つのセルの再生が終了すると、次に再生するセル情報がプログラムチェーンデータ中のセル再生順序情報から取得し、同様にして再生が続けられる。次に、図50から図55を参照して図4から図31に示す論理フォーマットで映像データ及びこの映像データを再生するための光ディスク10への記録方法及びその記録方法が適用される記録システムについて説明する。

【0187】図50は、映像データをエンコードしてあるタイトルセット84の映像ファイル88を生成するエンコードシステムが示されている。図50に示されるシステムにおいては、ビデオデータ、オーディオデータ、副映像データ、及びコンピュータデータのソースとして、例えば、ビデオテープレコーダ(VTR)211、オーディオテープレコーダ(ATR)212、副映像再生器(Subpicture source)213、及びコンピュータデータ再生器214が採用される。これらは、システムコントローラ(Sys con)215の制御下でビデオデータ、オーディオデータ、副映像データ、及びコンピュータデータを発生し、これらが夫々ビデオエンコーダ(ENC)216、オーディオエンコーダ(AENC)217、副映像エンコーダ(SPENC)218及びコンピュータデータエンコーダ(CENC)219に供給され、同様にシステムコントローラ(Sys con)215の制御下でこれらエンコーダ216、217、218、219でA/D変換されると共に夫々の圧縮方式でエンコードされ、エンコードされたビデオデータ、オーディオデータ、副映像データ及びコンピュータデータ(Comp Video, Comp Audio, Comp Sub-pict、Comp computer)としてメモリ221、221、222、223に格納される。

【0188】このビデオデータ、オーディオデータ、副映像データ及びコンピュータデータ(Comp Video, Comp Audio, Comp Sub-pict、Comp computer)は、システムコントローラ(Sys con)215によってファイルフォーマット(FFMT)224に出力され、既に説明したようなこのシステムの映像データのファイル構造に変換されるとともに各データの設定条件及び属性等の管理情報がファイルとしてシステムコントローラ(Sys con)215によってメモリ226に格納される。

【0189】以下に、映像データからファイルを作成するためのシステムコントローラ(Sys con)215におけるエンコード処理の標準的なフローを説明する。

【0190】図51に示されるフローに従ってビデオデ

56

ータ及びオーディオデータがエンコードされてエンコードビデオ及びオーディオデータ(Comp Video, Comp Audio)のデータが作成される。即ち、エンコード処理が開始されると、図51のステップ50に示すようにビデオデータ及びオーディオデータのエンコードにあたって必要なパラメータが設定される。この設定されたパラメータの一部は、システムコントローラ(Sys con)215に保存されるとともにファイルフォーマット(FFMT)224で利用される。ステップS51で示すようにパラメータを利用してビデオデータがプリエンコードされ、最適な符号量の分配が計算される。ステップS52に示されるようにプリエンコードで得られた符号量分配に基づき、ビデオのエンコードが実行される。このとき、オーディオデータのエンコードも同時に実行される。ステップS53に示すように必要であれば、ビデオデータの部分的な再エンコードが実行され、再エンコードした部分のビデオデータが置き換えられる。この一連のステップによってビデオデータ及びオーディオデータがエンコードされる。

【0191】また、ステップS54及びS55に示すように副映像データがエンコードされエンコード副映像データ(Comp Sub-pict)が作成される。即ち、副映像データをエンコードするにあたって必要なパラメータが同様に設定される。ステップS54に示すように設定されたパラメータの一部がシステムコントローラ(Sys con)215に保存され、ファイルフォーマット(FFMT)224で利用される。このパラメータに基づいて副映像データがエンコードされる。この処理により副映像データがエンコードされる。

【0192】また、ステップS56及びS57に示すようにコンピュータデータがエンコードされエンコードコンピュータデータ(Comp computer)が作成される。即ち、データをエンコードするにあたって必要なパラメータが同様に設定される。ステップS56に示すように設定されたパラメータの一部がシステムコントローラ(Sys con)215に保存され、ファイルフォーマット(FFMT)224で利用される。このパラメータに基づいてコンピュータデータがエンコードされる。この処理によりコンピュータデータがエンコードされる。

【0193】図52に示すフローに従って、エンコードされたビデオデータ、オーディオデータ、副映像データ、及びコンピュータデータ(Comp Video, Comp Audio, Comp Sub-pict、Comp computer)が組み合わされて図4及び図12を参照して説明したような映像データのタイトルセット構造に変換される。即ち、ステップS61に示すように映像データの最小単位としてのセルが設定され、セルに関するセル再生情報(C_PBI)が作成される。次に、ステップS62に示すようにプログラムチェーンを構成するセルの構成、ビデオ、副映像及びオーディオ属性等が設定され(これらの属性情報の一部

57

は、各データエンコード時に得られた情報が利用される。) 、図12に示すようにプログラムチェーンに関する情報を含めたビデオタイトルセット情報管理テーブル情報(VTSI_MAT) 98及びビデオタイトルセット時間サーチマップテーブル(VTS_MAPT) 101が作成される。このとき必要に応じてビデオタイトルセットダイレクトアクセスポインタテーブル(VTS_DAPT) も作成される。次にステップS63に示すように、エンコードされたビデオデータ、オーディオデータ、副映像データ、及びコンピュータデータ(Com Video, Comp Audio, Comp Sub-pict、Comp computer) が一定のバックに細分化され、各データのタイムコード順に再生可能なように、VOBU単位毎にその先頭にNVバック86を配置しながら各データセルが配置されて図6に示すような複数のセルで構成されるビデオオブジェクト(VOB) が構成され、このビデオオブジェクトのセットでタイトルセットの構造にフォーマットされる。

【0194】尚、図52に示したフローにおいて、プログラムチェーン情報は、ステップS62の過程で、システムコントローラ(Sys con) 215のデータベースを利用したり、或いは、必要に応じてデータを再入力する等を実行し、プログラムチェーン情報(PGI) として記述される。

【0195】図53は、上述のようにフォーマットされたタイトルセットを光ディスクへ記録するためのディスクフォーマットのシステムを示している。図53に示すようにディスクフォーマットシステムでは、作成されたタイトルセットが格納されたメモリ230、232からこれらファイルデータがボリュームフォーマット(VFMT) 236に供給される。ボリュームフォーマット

(VFMT) 236では、タイトルセット84、86から管理情報が引き出されてビデオマネージャ71が作成され、図4に示す配列順序でディスク10に記録されるべき状態の論理データが作成される。ボリュームフォーマット(VFMT) 236で作成された論理データにエラー訂正用のデータがディスクフォーマット(DFMT) 238において付加され、ディスクへ記録する物理データに再変換される。変調器(Modulator) 240において、ディスクフォーマット(DFMT) 238で作成された物理データが実際にディスクへ記録する記録データに変換され、この変調処理された記録データが記録器(Recorder) 242によってディスク10に記録される。

【0196】上述したディスクを作成するための標準的なフローを図54及び図55を参照して説明する。図54には、ディスク10に記録するための論理データが作成されるフローが示されている。即ち、ステップS80で示すように映像データファイルの数、並べ順、各映像データファイル大きさ等のパラメータデータが始めに設定される。次に、ステップS81で示すように設定され

58

たパラメータと各ビデオタイトルセット72のビデオタイトルセット情報81からビデオマネージャ71が作成される。その後、ステップS82に示すようにビデオマネージャ71、ビデオタイトルセット72の順にデータが該当する論理ブロック番号に沿って配置され、ディスク10に記録するための論理データが作成される。

【0197】その後、図55に示すようなディスクへ記録するための物理データを作成するフローが実行される。即ち、ステップS83で示すように論理データが一定バイト数に分割され、エラー訂正用のデータが生成される。次にステップS84で示すように一定バイト数に分割した論理データと、生成されたエラー訂正用のデータが合わされて物理セクタが作成される。その後、ステップS85で示すように物理セクタを合わせて物理データが作成される。このように図55に示されたフローで生成された物理データに対し、一定規則に基づいた変調処理が実行されて記録データが作成される。その後、この記録データがディスク10に記録される。

【0198】上述したデータ構造は、光ディスク等の記録媒体に記録してユーザに頒布して再生する場合に限らず、図56に示すような通信系にも適用することができる。即ち、図50から図53に示した手順に従って図4に示すようなビデオマネージャ71及びビデオタイトルセット72等が格納された光ディスク10が再生装置300にロードされ、その再生装置のシステムCPU部50からエンコードされたデータがデジタル的に取り出され、モジュレータ/トランスミッター310によって電波或いはケーブルでユーザ或いはケーブル加入者側に送られても良い。また、図50及び図53に示したエンコードシステム320によって放送局等のプロバイダ側でエンコードされたデータが作成され、このエンコードデータが同様にモジュレータ/トランスミッター310によって電波或いはケーブルでユーザ或いはケーブル加入者側に送られても良い。このような通信システムにおいては、始めにビデオマネージャ71の情報がモジュレータ/トランスミッター310で変調されて或いは直接にユーザ側に無料で配布され、ユーザがそのタイトルに興味を持った際にユーザ或いは加入者からの要求に応じてそのタイトルセット72をモジュレータ/トランスミッター310によって電波或いはケーブルを介してユーザ側に送られることとなる。タイトルの転送は、始めに、ビデオマネージャ71の管理下でビデオタイトルセット情報94が送られてその後にこのタイトルセット情報94によって再生されるビデオタイトルセットにおけるタイトル用ビデオオブジェクト95が転送される。このとき必要であれば、ビデオタイトルセットメニュー用のビデオオブジェクト95も送られる。送られたデータは、ユーザ側でレシーバ/復調器400で受信され、エンコードデータとして図1に示すユーザ或いは加入者側の再生装置のシステムCPU部50で上述し

た再生処理と同様に処理されてビデオが再生される。

【0199】ビデオタイトルセット72の転送においてビデオオブジェクトセット95、96は、図6に示すビデオオブジェクトユニット85を単位として転送される。このビデオオブジェクトユニット85には、ビデオの再生及びサーチ情報が格納されたNVパック86がその先頭に配置されている。しかも、このNVパック86には、そのNVパック86が属するビデオオブジェクトユニット85を基準として前後に再生されるべきビデオオブジェクトユニットのアドレスが記載されていることから、ビデオオブジェクトユニット85の転送中に何らかの原因でビデオオブジェクトユニット85が欠けたとしても欠けたビデオオブジェクトユニット85の再転送を要求することによって確実にユーザ側でビデオデータを再生することができる。また、転送は、ビデオオブジェクトユニットの再生順に実施されなくともユーザ側のシステムROM/RAM部52が正確なプログラムチェーンの再生情報を保持することでそのNVパック86のアドレスデータを参照して再生順序をシステムCPU部50が指示することができる。

【0200】上述した説明においては、ビデオオブジェクトユニットは、ビデオ、オーディオ、副映像及びコンピュータデータを含むデータ列として説明したが、ビデオ、オーディオ、副映像及びコンピュータデータのいずれかが含まれれば良く、オーディオパックのみ或いは副映像パックのみコンピュータデータパックのみで構成されても良い。

【0201】上記したように、ディスクのデータ領域に、プログラムチェーン、プログラム、セル、パックの階層構造でデータが記録され、上記各パックが、各パックを識別するためのパックヘッダとデータストリームが記録されるパケットよりなり、上記パケットが少なくともプライベートストリームを示すデータを有するパケットヘッダとプライベートストリームの種別を示すデータとこの種別に対応するパケットデータよりなるようにしたものである。

【0202】これにより、さまざまな種別データを複数種類取り扱うことができる。

【0203】また、取り扱うデータがドルビーAC3オーディオデータ、リニアPCMオーディオデータの場合には、途中からの再生がスムーズにでき、コンピュータデータの時には、使用できる環境が簡単に検出できる。

【0204】上述した実施例においては、記録媒体として高密度記録タイプの光ディスクについて説明したが、この発明は、光ディスク以外の他の記憶媒体、例えば、磁気ディスク或いはその他の物理的に高密度記録可能な記憶媒体等にも適用することができる。

【0205】

【発明の効果】以上詳述したように、この発明によれば、さまざまな種別データを複数種類取り扱うことがで

きる。

【0206】また、取り扱うデータがリニアオーディオデータの場合には、途中からの再生がスムーズにでき、コンピュータデータの時には、使用できる環境が簡単に検出できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例に係る光ディスク装置の概略を示すブロック図。

【図2】図1に示したディスクドライブ装置の機構部の詳細を示すブロック図。

【図3】図1に示したディスクドライブ装置に装填される光ディスクの構造を概略的に示す斜視図。

【図4】図3に示す光ディスクの論理フォーマットの構造を示す図。

【図5】図4に示されるビデオマネージャの構造を示す図。

【図6】図5に示されビデオオブジェクトセット(VOB)の構造を示す例である。

【図7】図6に示されたビデオオブジェクトユニットの構造を示す説明図。

【図8】図5に示されたビデオマネージャ(VMGI)内のビデオマネージャ情報管理テーブル(VMGI_MAT)のパラメータ及び内容を示す図。

【図9】図5に示されたビデオマネージャ(VMGI)内のタイトルサーチポイントテーブル(TSPT)の構造を示す図。

【図10】図9に示したタイトルサーチポイントテーブル(TSPT)のタイトルサーチポイントテーブルの情報(TSPTI)のパラメータ及び内容を示す図。

【図11】図9に示したタイトルサーチポイントテーブル(TSPT)の入力番号に対応したタイトルサーチポイント(TT_SRP)のパラメータ及び内容を示す図。

【図12】図4に示したビデオタイトルセットの構造を示す図。

【図13】図12に示したビデオタイトルセット情報(VTSI)のビデオタイトルセット情報の管理テーブル(VTSI_MAT)のパラメータ及び内容を示す図。

【図14】図12に示したビデオタイトルセット情報(VTSI)のビデオタイトルセットプログラムチェーン情報のテーブル(VTS_PGCIT)の構造を示す図。

【図15】図14に示したビデオタイトルセットプログラムチェーン情報のテーブル(VTS_PGCIT)の情報(VTS_PGCITI)のパラメータ及び内容を示す図。

【図16】図14に示したビデオタイトルセットプログラムチェーン情報のテーブル(VTS_PGCIT)のプログラムチェーンに対応したサーチポイント(VTS

61

__PGCIT__SRP) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 17】図 14 に示したビデオタイトルセットプログラムチェーン情報のテーブル (VTS__PGCIT) のプログラムチェーンに対応したビデオタイトルセットの為のプログラムチェーン情報 (VTS__PGCI) の構造を示す図。

【図 18】図 17 に示したプログラムチェーン情報 (VTS__PGCI) のプログラムチェーンの一般情報 (PGC__GI) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 19】図 17 に示したプログラムチェーン情報 (VTS__PGCI) のプログラムチェーンのマップ (PGC__PGMAP) の構造を示す図。

【図 20】図 19 に示したプログラムチェーンのマップ (PGC__PGMAP) に記述されるプログラムに対するエン트리セル番号 (ECELLN) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 21】図 17 に示したプログラムチェーン情報 (VTS__PGCI) のセル再生情報テーブル (C__PBIT) の構造を示す図。

【図 22】図 21 に示したセル再生情報テーブル (C__PBIT) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 23】図 18 に示したプログラムチェーン情報 (VTS__PGCI) のセル位置情報 (C__POSI) の構造を示す図。

【図 24】図 23 に示したセル位置情報 (C__POSI) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 25】図 6 に示したナビゲーションパックの構造を示す図。

【図 26】図 6 に示したビデオ、オーディオ、副映像パックの構造を示す図。

【図 27】図 26 に示されるナビゲーションパックの再生制御情報 (PCI) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 28】図 27 に示される再生制御情報 (PCI) 中の一般情報 (PCI__GI) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 29】図 26 に示されるナビゲーションパックのディスクサーチ情報 (DSI) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 30】図 29 に示されるディスクサーチ情報 (DSI) の DSI 一般情報 (DSI__GI) のパラメータ及び内容を示す図。

【図 31】図 29 に示されるビデオオブジェクト (VOB) の同期再生情報 (SYNCI) のパラメータ及びその内容を示す図。

【図 32】調整データ長が 7 バイト以上の際の調整例を説明するための図。

【図 33】調整データ長が 6 バイト以下の際の調整例を説明するための図。

【図 34】パックの構成を説明するための図。

62

【図 35】パックの構成を説明するための図。

【図 36】ビデオパックの構成を説明するための図。

【図 37】オーディオパックの構成を説明するための図。

【図 38】副映像パックの構成を説明するための図。

【図 39】コンピュータデータのパックの構成を説明するための図。

【図 40】コンピュータデータの環境種別を説明するための図。

10 【図 41】ストリーム ID の構成を説明するための図。

【図 42】プライベートストリーム 1 に対するサブストリーム ID の内容を説明するための図。

【図 43】プライベートストリーム 2 に対するサブストリーム ID の内容を説明するための図。

【図 44】オーディオパックとパケットの構成を説明するための図。

【図 45】コンピュータデータのパックとパケットの構成を説明するための図。

20 【図 46】副映像パックとパケットの構成を説明するための図。

【図 47】パケット転送処理部の構成を説明するためのブロック図。

【図 48】ビデオデータ、オーディオデータ、副映像データ、コンピュータデータの再生処理の手順を示すフローチャート。

【図 49】パケット転送処理を説明するためのフローチャート。

【図 50】映像データをエンコードして映像ファイルを生成するエンコードシステムを示すブロック図。

30 【図 51】図 50 に示されるエンコード処理を示すフローチャートである。

【図 52】図 51 に示すフローでエンコードされたビデオデータ、オーディオデータ及び副映像データを組み合わせて映像データのファイルを作成するフローチャートである。

【図 53】フォーマットされた映像ファイルを光ディスクへ記録するためのディスクフォーマットのシステムを示すブロック図。

40 【図 54】図 53 に示されるディスクフォーマットにおけるディスクに記録するための論理データを作成するフローチャートである。

【図 55】論理データからディスクへ記録するための物理データを作成するフローチャートである。

【図 56】図 4 に示すビデオタイトルセットを通信系を介して転送するシステムを示す概略図。

【符号の説明】

10…光ディスク

71…管理領域

72…データ領域

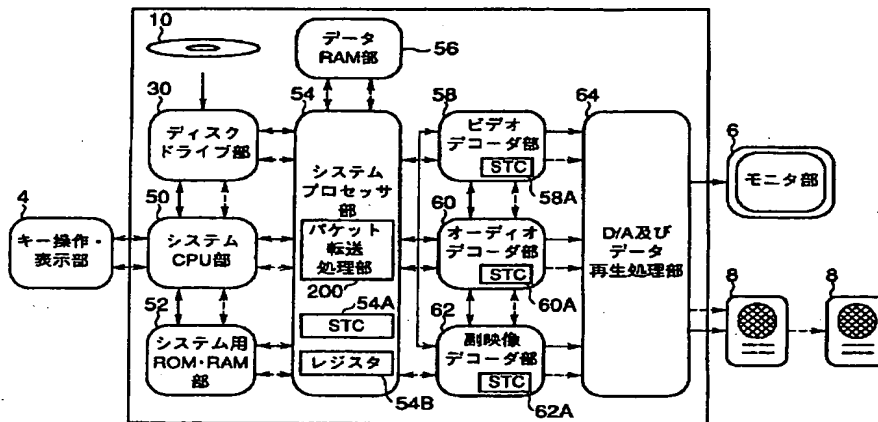
50 84…セル

63
 86…ナビゲーションパック
 87…ビデオパック
 88…コンピュータデータパック
 90…副映像パック
 91…オーディオパック
 120…バックヘッダ

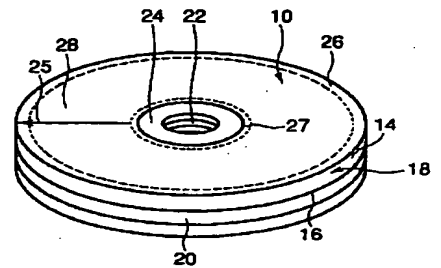
64
 *121…パッケージヘッダ
 131、141、151…サブストリームID
 133…フレームデータの開始アドレス
 187…プログラムチェーン
 189…プログラム

*

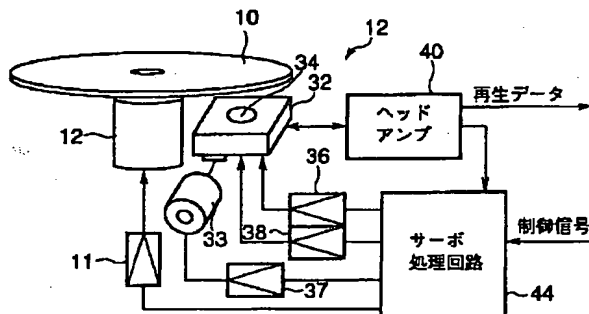
【図1】



【図3】



【図2】



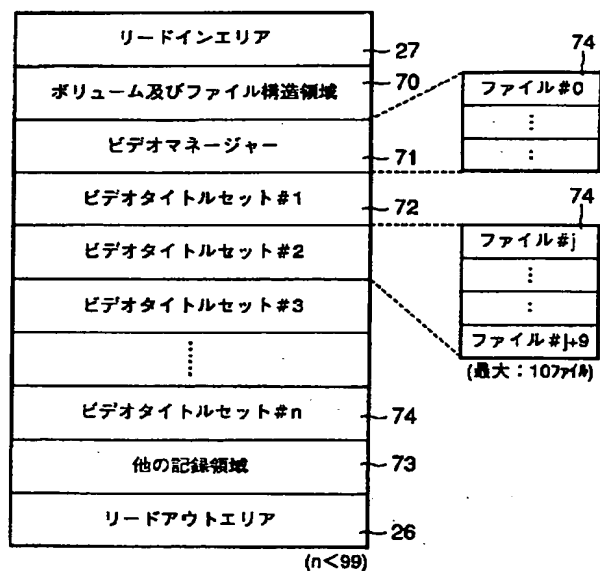
【図9】

TT_SRPT

タイトルサーチポイントテーブル情報 (TSPT)	92
入力番号1のタイトルサーチポイント (TT_SRP)	93
入力番号2のタイトルサーチポイント (TT_SRP)	
⋮	
入力番号nのタイトルサーチポイント (TT_SRP)	

79

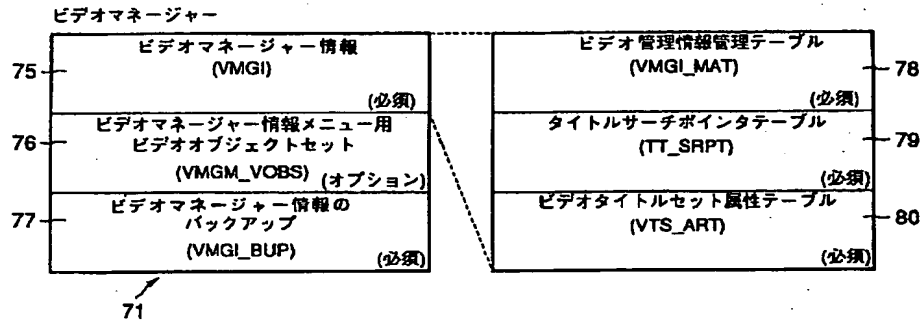
【図4】



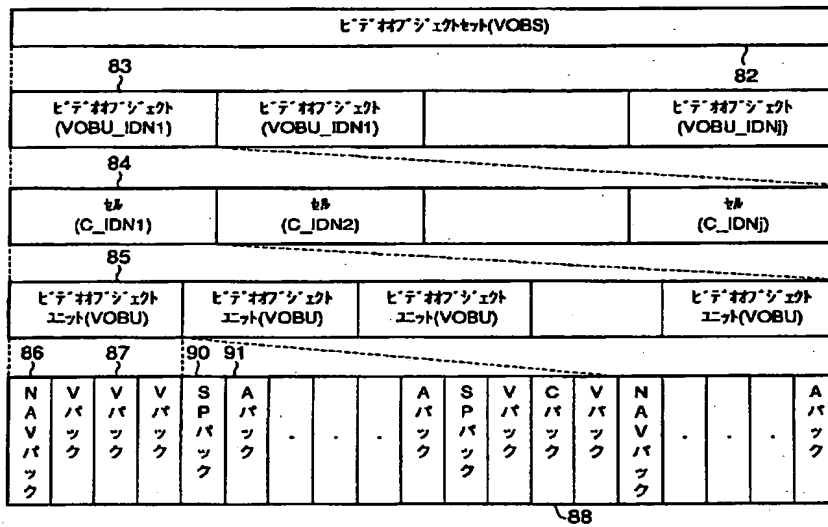
【図10】

TT_SRPTI	内容	(記述順)
EN_PGC_Ns	エントリーPGCの数	
TT_SRPT_EA	TT_SRPTの終了アドレス	

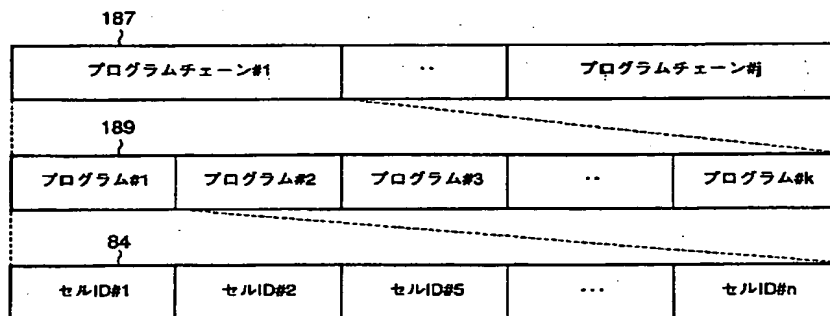
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

VMGI_MAT	内容	(記述順)
VMG_ID	ビデオマネージャの識別子	
VMGI_SZ	ビデオ管理情報のサイズ	
VERN	DVDの規格に関するバージョン番号	
VMG_CAT	ビデオマネージャのカテゴリ	
VLMS_ID	ボリュームセット識別子	
VTS_Ns	ビデオタイトルセットの数	
PVR_ID	提供者のID	
VMGM_VOBS_SA	VMGM_VOBSの開始アドレス	
VMGI_MAT_EA	VMGI_MATの終了アドレス	
TT_SRPT_SA	TT_SRPTの開始アドレス	
VTS_ATRT_SA	VTS_ATRTの開始アドレス	
VMGM_V_ATR	VMGMのビデオ属性	
VMGM_AST_Ns	VMGMのオーディオストリーム数	
VMGM_AST_ATR	VMGMのオーディオストリーム属性	
VMGM_SPST_Ns	VMGMの副映像ストリーム数	
VMGM_SPST_ATR	VMGMの副映像ストリーム属性	

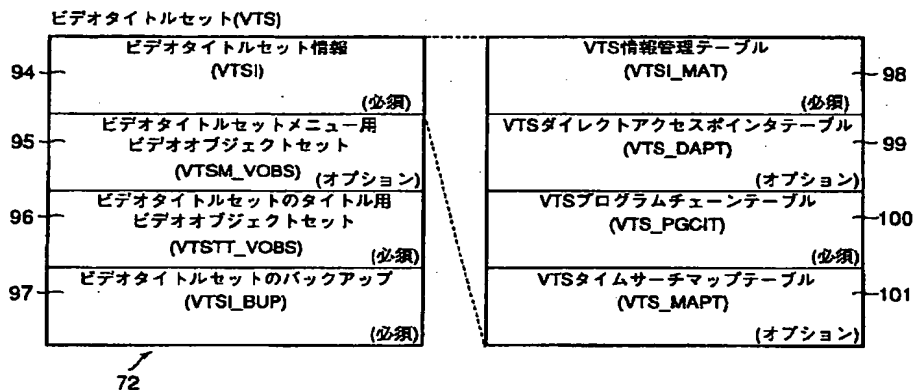
【図 11】

TT_SRP	内容	(記述順)
VTSN	ビデオタイトルセット番号	
PGCN	プログラムチェーン番号	
VTS_SA	ビデオタイトルセットの開始アドレス	

【図 16】

VTS_PGCIT_SRP	内容	(記述順)
VTS_PGC_CAT	VTS_PGCのカテゴリ	
VTS_PGCI_SA	VTS_PGC情報の開始アドレス	

【図 12】



【図 13】

VTSI_MAT	内容
VTS_ID	ビデオタイトルセット識別子
VTS_SZ	当該VTSのサイズ
VERN	DVDビデオ規格のバージョン番号
VTS_CAT	ビデオタイトルセットのカテゴリ
VTSM_VOBS_SA	VTSM_VOBSの開始アドレス
VTSTT_VOBS_SA	VTSTT_VOBSの開始アドレス
VTI_MAT_EA	VTSI_MATの終了アドレス
VTS_DAPT_SA	VTS_DAPTの開始アドレス
VTS_PGCIT_SA	VTS_PGCITの開始アドレス
VTS_PGCIT_UT_SA	VTS_PGCIT_UTの開始アドレス
VTS_MAPT_SA	VTS_MAPTの開始アドレス
VTS_V_ATR	ビデオ属性
VTS_AST_Ns	VTSについてのオーディオストリーム数
VTS_AST_ATR	VTSについてのオーディオストリーム属性
VTS_SPST_Ns	VTSについての副映像ストリーム数
VTS_SPST_ATR	VTSについての副映像ストリーム属性
VTSM_AST_Ns	VTSMについてのオーディオストリーム数
VTSM_AST_ATR	VTSMについてのオーディオストリーム属性
VTS_SPST_Ns	VTSMについての副映像ストリーム数
VTS_SPST_ATR	VTSMについての副映像ストリーム属性

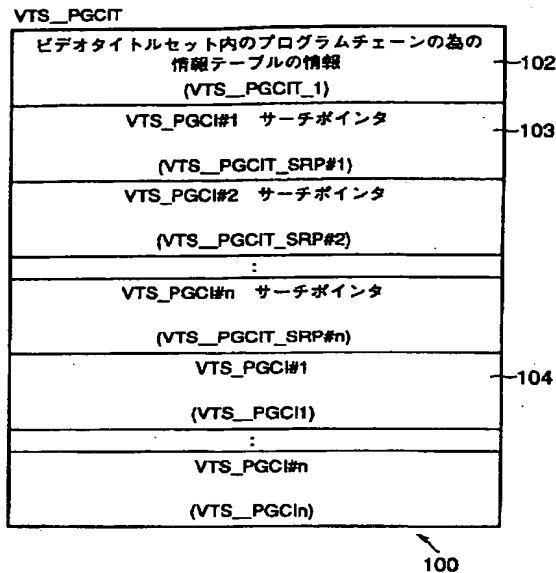
【図 15】

VTS_PGCIT_I	内容	(記述順)
VTS_PGC_Ns	VTS_PGCの数	
VTS_PGCIT_EA	VTS_PGCITの終了アドレス	

【図 18】

PGC_GI	内容	(記述順)
PGC_CAT	PGCカテゴリ	
PGC_CNT	PGCの内容	
PGC_PB_TIME	PGCの再生時間	
PGC_SPST_CTL	PGC副映像ストリーム制御	
PGC_AST_CTL	PGCオーディオストリーム制御	
PGC_SP_PLT	PGC副映像パレット	
C_PBIT_SA	C_PBITの開始アドレス	
C_POSIT_SA	C_POSITの開始アドレス	

【図 14】



【図 19】

PGC_PGMAP

プログラム #1のエントリーセル番号
プログラム #2のエントリーセル番号
⋮
⋮
プログラム #nのエントリーセル番号

【図 22】

C_PBI	内容
C_CAT	セルカテゴリー
C_PBTM	セル再生時間
C_FVOBU_SA	セル中の最初のVOBUの開始アドレス
C_LVOBU_SA	セル中の最後のVOBUの開始アドレス

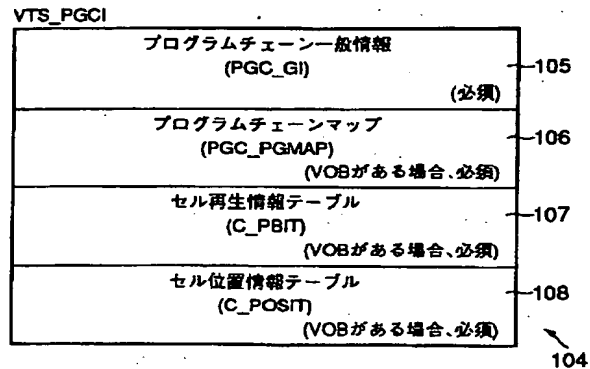
【図 24】

C_POSI	内容
C_VOB_IDN	セル内のVOB ID番号
C_IDN	当該セルのID番号

【図 27】

PCI	内容
PCI_GI	PCIの一般情報
NSLS_ANGLE	アングル情報

【図 17】



【図 20】

エントリーセル番号	内容
ECELLN	エントリーセル番号

【図 21】

C_PBIT

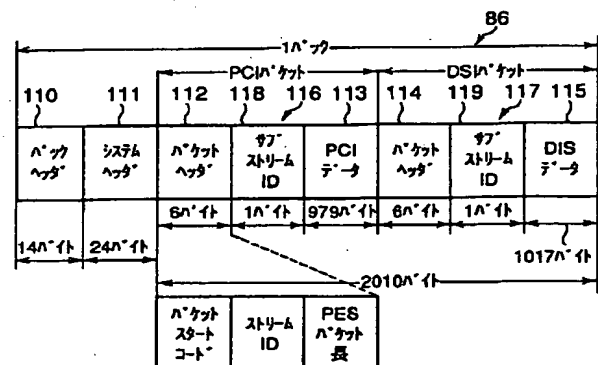
セル再生情報 #1(C_PBIT1)
セル再生情報 #2(C_PBIT2)
⋮
セル再生情報 #n(C_PBITn)

【図 23】

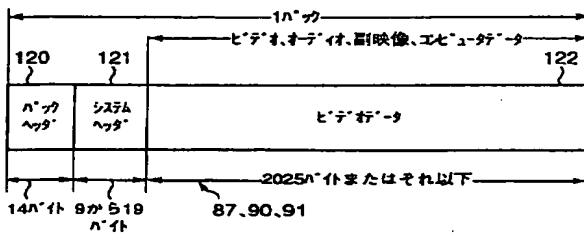
C_POSI

セル位置情報 #1(C_POSIT1)
⋮
セル位置情報 #n(C_POSITn)

【図 25】



【図 26】



【図 28】

PCI_GI	内容
NV_PCK_LBN	NVパックのLBN
VOBU_CAT	VOBUのカテゴリ
VOBU_SPTS	VOBUのスタートPTS
VOBU_EPTS	VOBUのエンドPTS

【図 40】

データ	使用CPU	使用OS
0110 (h)	CPU1	OS1
0111 (h)	CPU1	OS2
1002 (h)	CPU2	OS3
0102 (h)	CPU1	OS3

【図 29】

【図 30】

DSI	内容
DSI_GI	DSIの一般情報
SML_AGLI	アングルの情報
VOBU_SI	VOBUのサーチ情報
SYNCI	同期再生情報

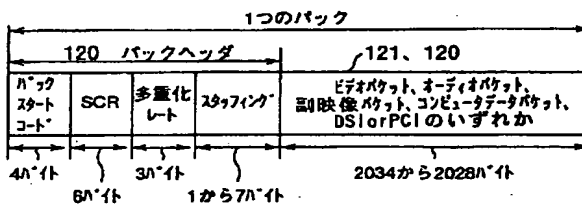
DSIGI	内容
NV_PCK_SCR	NVパックのSCR
NV_PCK_LBN	NVパックのLBN
VOBU_EA	VOBUの終了アドレス
VOBU_IP_EA	最初のピクチャーの終了アドレス
VOBU_VOB_IDN	VOBのID番号
VOBU_C_IDN	セルのID番号

【図 31】

【図 32】

SYNCI	内容
A_SYNCI 0 to 7	同期対象のオーディオパックのアドレス
SP_SYNCI 0 to 31	VOBU内の対象副映像パックの開始アドレス

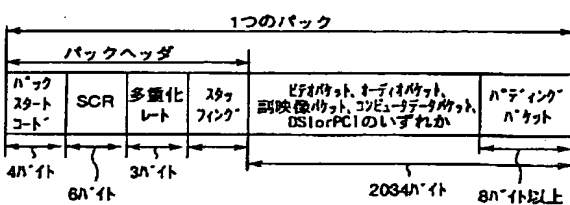
パディングパケットを挿入しない場合



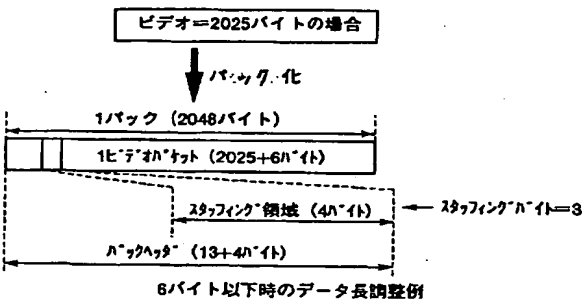
【図 33】

【図 34】

パディングパケットを挿入した場合

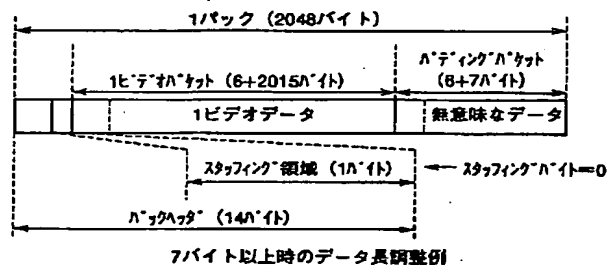


【図 35】



ビデオ=2015バイトの場合

バック化

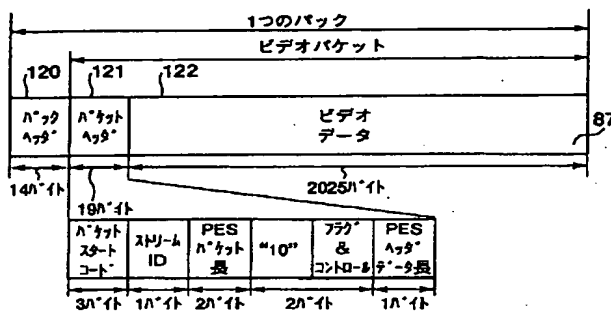


【図 39】

120	121	151	152	153
ビデオデータ	ビデオデータ	ビデオデータ	ビデオデータ	ビデオデータ
14バイト	14バイト	14バイト	24バイト	2017バイト

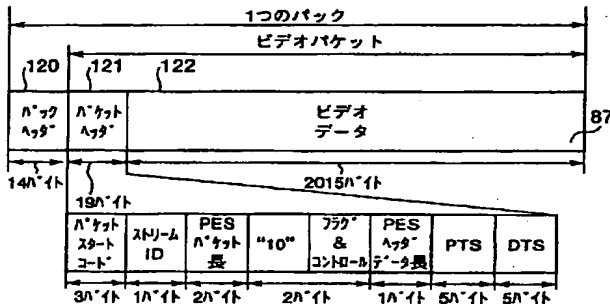
【図 3 6】

パケットヘッダにPTS,DTSを含まない場合



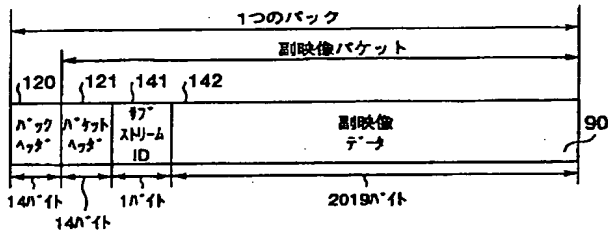
(a)

パケットヘッダにPTS,DTSを含む場合



(b)

【図 3 8】

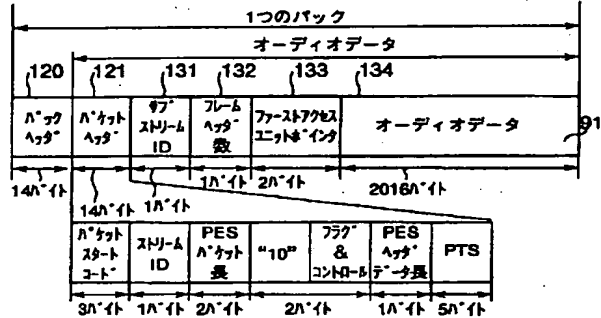


【図 4 1】

ストリームコード	ストリームID	コメント
プログラムストリームマップ	10111100	
プライベートストリーム1	10111101	
パディングストリーム	10111110	ダミーデータ
プライベートストリーム2	10111111	
MPEGオーディオストリーム	110XXXXXX	XXXXXX=ストリーム番号
MPEGビデオストリーム	1110XXXXX	
エンタイトルメント制御メッセージ	11110000	
エンタイトルメント管理メッセージ	11110001	
DSMコントロール・コマンド	11110010	
プログラム・ストリーム・ディレクトリ	11111111	

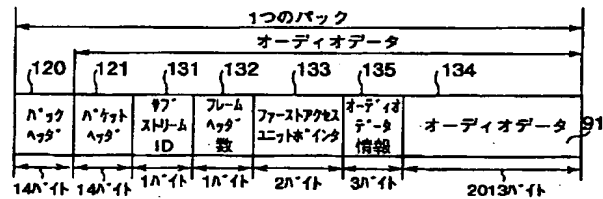
【図 3 7】

ドルビーAC3の場合



(a)

リニアPCMの場合



(b)

【図 4 2】

プライベートストリーム1に対するサブストリームの内容

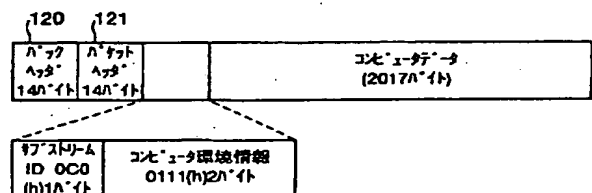
ストリームコード	ストリームID(b)	コメント
ニアPCMステレオストリーム	10100XXXX	XXXX=ストリーム番号
副映像ストリーム	001XXXXXX	XXXXXX=ストリーム番号
エンタイトルメント	11000000	
ドルビーAC3ステレオストリーム	10000XXXX	XXXX=ストリーム番号

【図 4 3】

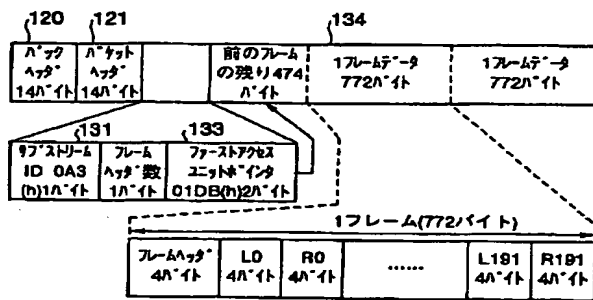
プライベートストリーム2に対するサブストリームの内容

ストリームコード	ストリームID(b)
PCMストリーム	00000000
DSIストリーム	00000001

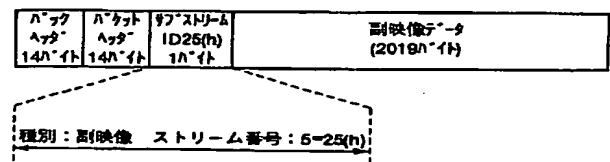
【図 4 5】



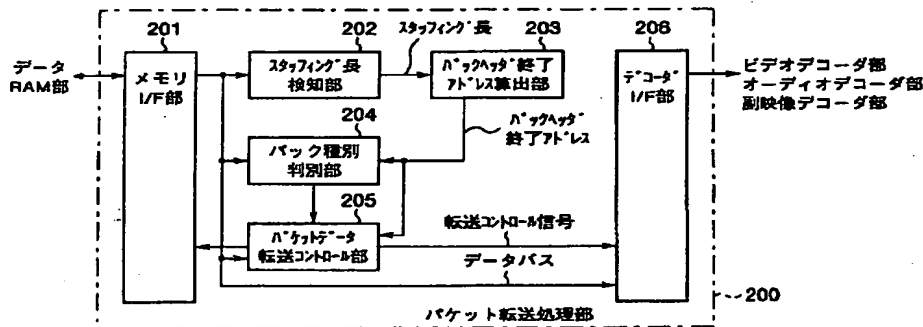
【図44】



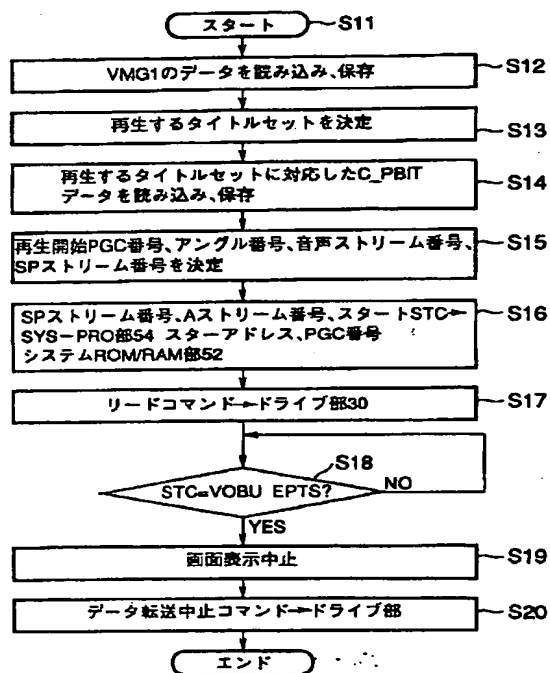
【図46】



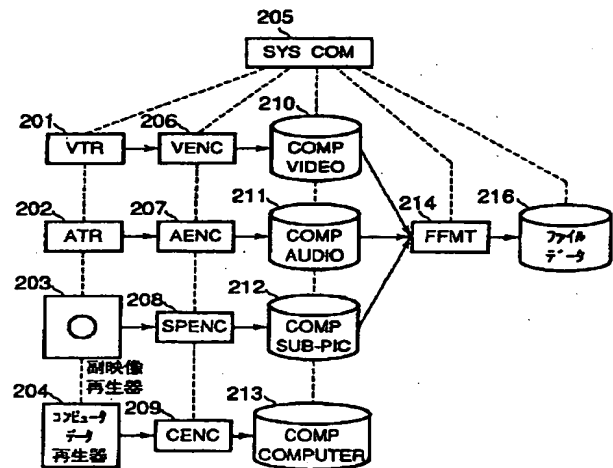
【図47】



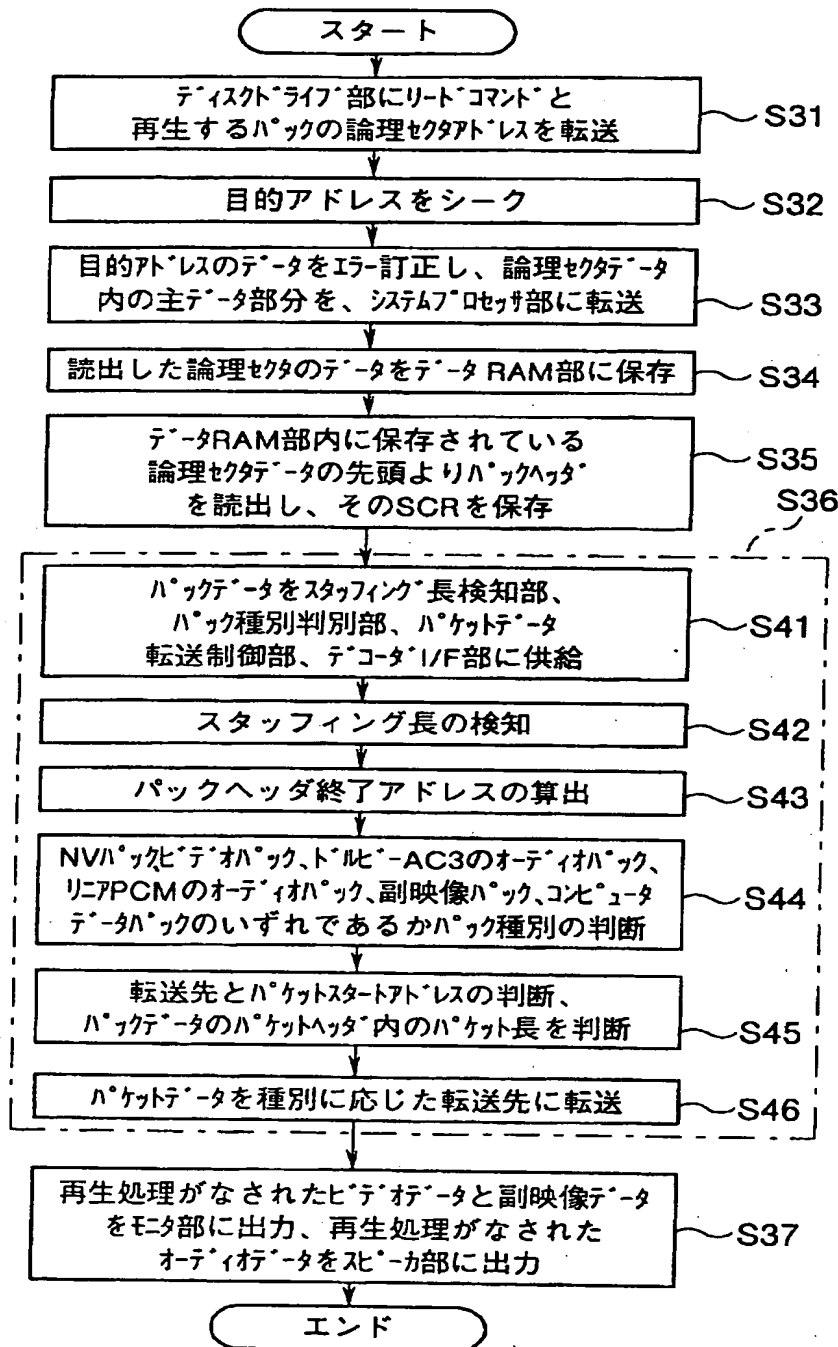
【図48】



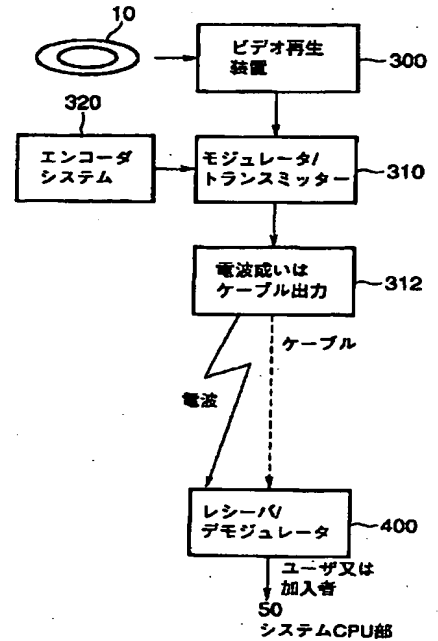
【図50】



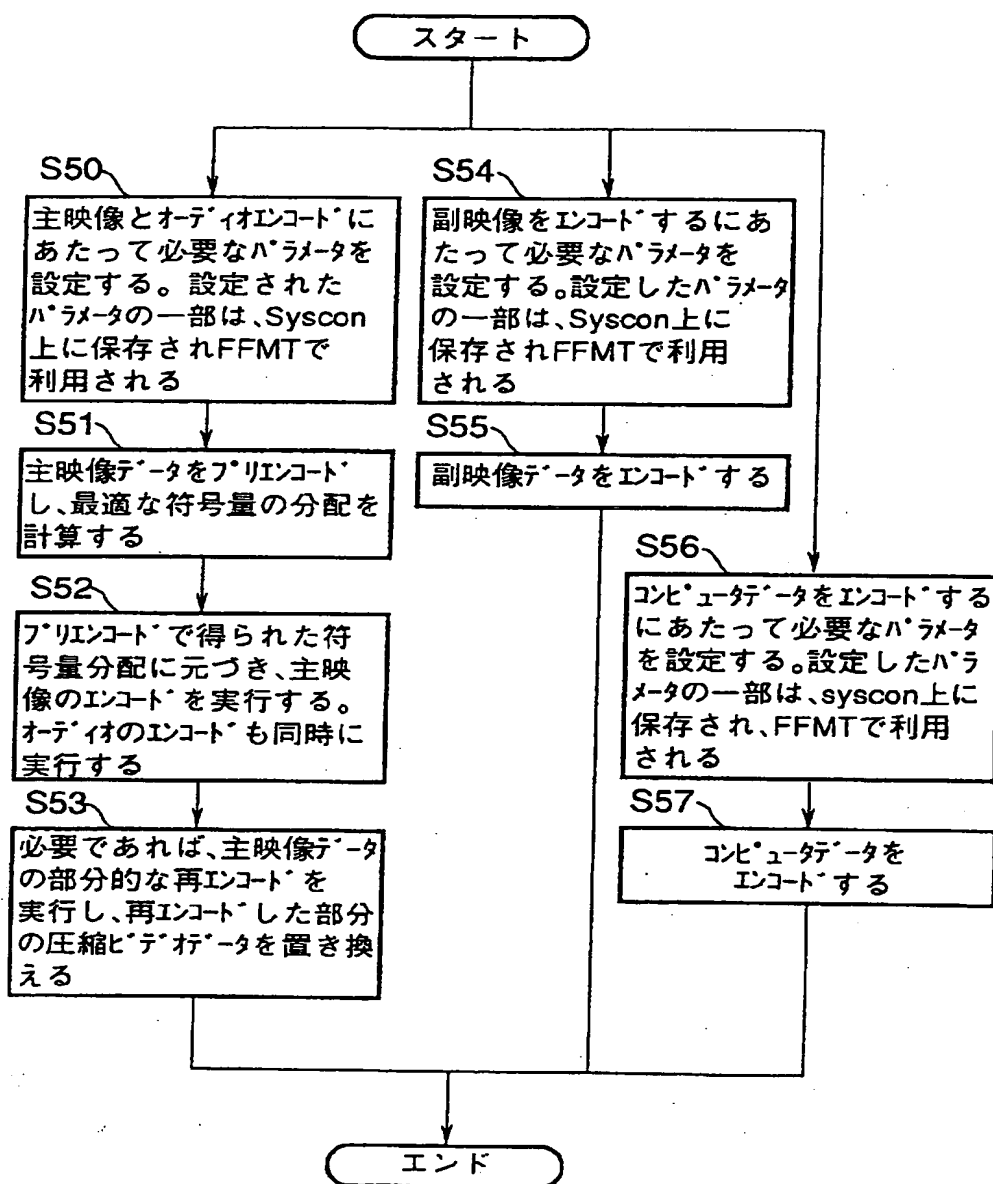
【図 4 9】



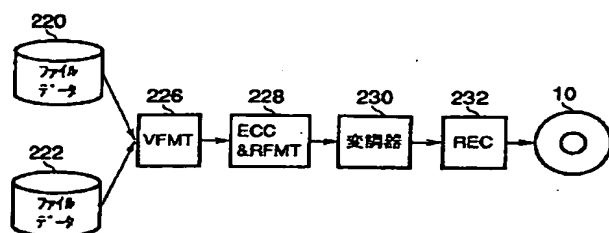
【図 5 6】



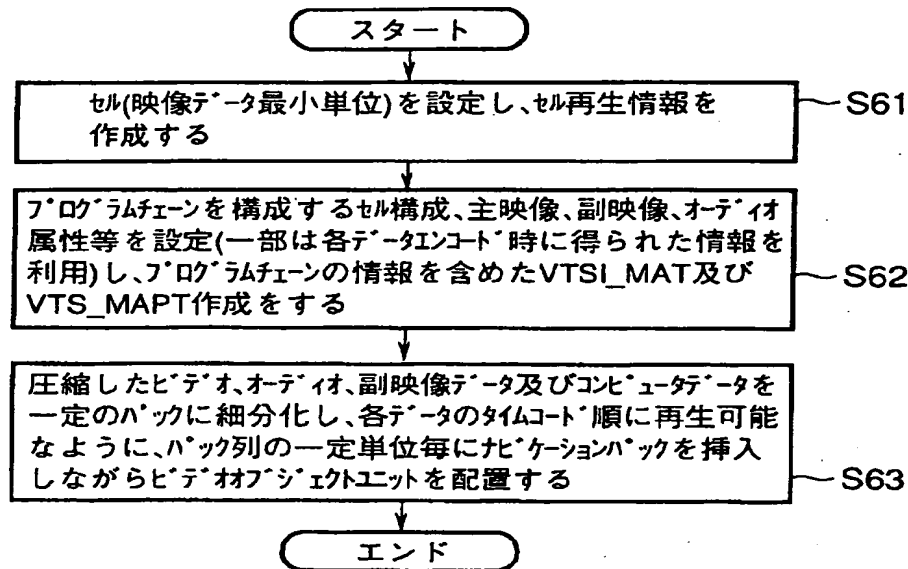
【図51】



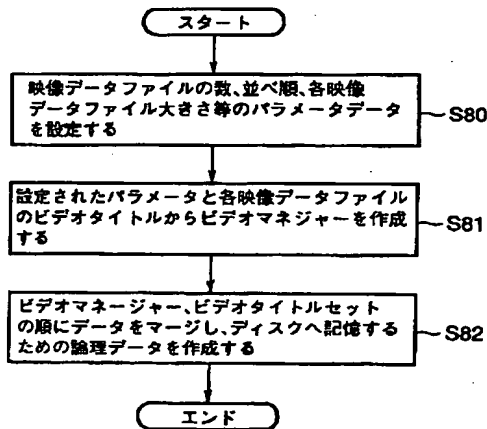
【図53】



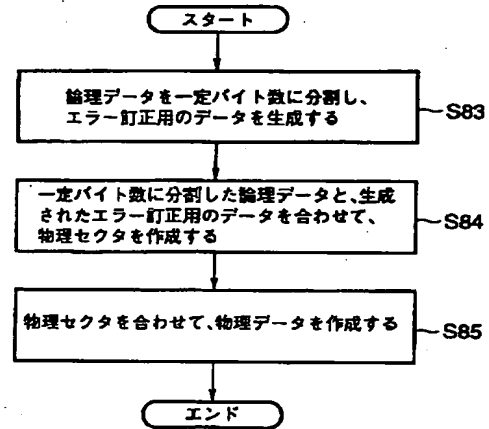
【図 5 2】



【図 5 4】



【図 5 5】



フロントページの続き

(72)発明者 平良 和彦
東京都港区新橋3丁目3番9号 東芝エー・ピー・イー株式会社内

(72)発明者 蔵野 智昭
神奈川県川崎市幸区柳町70番地 株式会社東芝柳町工場内